

(3) 市町村アンケート

1 調査の概要

(1) 調査目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、市町村の事業に対する有効性・満足度・今後の期待度等の把握をし、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) アンケート調査の項目と回答率

1 森林整備全般	送付数	35/回答数	27	回答率	77%
2 人工林整備事業	送付数	15/回答数	12	回答率	80%
3 里山林整備事業（事業実施市町村）	送付数	21/回答数	17	回答率	81%
4 里山林整備事業（事業未実施市町村）	送付数	14/回答数	10	回答率	71%
5 都市緑化推進事業	送付数	54/回答数	43	回答率	80%
6 環境活動・学習推進事業	送付数	54/回答数	44	回答率	81%
7 木の香る学校づくり推進事業	送付数	54/回答数	43	回答率	80%
8 愛知県産木材利活用推進事業	送付数	54/回答数	43	回答率	80%

(3) 調査設計

- ①調査地域 愛知県
- ②調査対象 県内市町村
- ③標本数 301
- ④抽出方法 全数調査
- ⑤調査方法 郵送法
- ⑥調査期間 平成29年6月30日～7月14日

(4) 調査委託先

合同会社KURIO

(5) 回収結果

回収数 239 (79.4%)

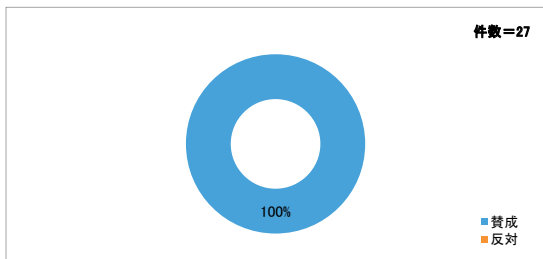
1

1 森林整備全般 市町村アンケート

送付数 35/回答数 27 回答率 77%

(1) 今後の事業継続について

問1 森林が有する公益的機能の維持増進のため、平成31年度以降も「あいち森と緑づくり事業」を継続して、森林、里山林の適正な整備及び保全に関する取組を行うことについてどのように思いますか。



今後の事業継続について、「賛成」と答えた市町村の割合が100%となっている。

3

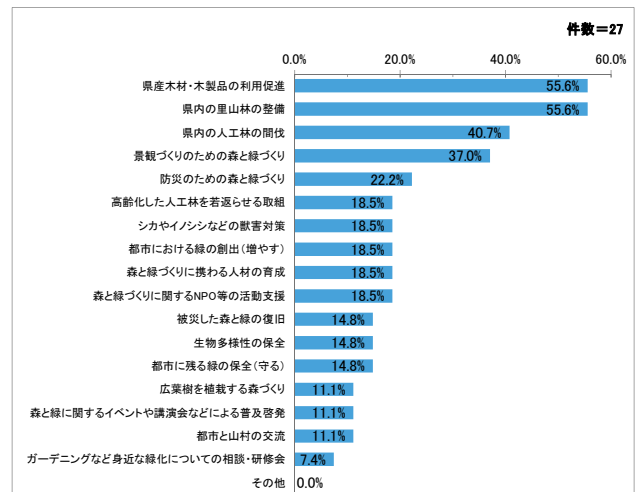
調査結果

2

(2) 今後の事業のあり方

問2 問1で「1. 賛成」と答えた市町村にお聞きします。

「あいち森と緑づくり事業」を平成31年度以降も継続する場合、どのような取組が適当だと思いますか。（複数回答可）



今後の事業のあり方について、「県産木材・木製品の利用促進」と「県内の里山林の整備」と答えた市町村の割合が55.6%と最も高く、続いて「県内の人工林の間伐」(40.7%)、「景観づくりのための森と緑づくり」(37.0%)の順になっている。

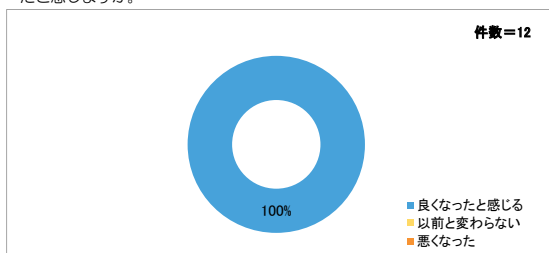
4

2 人工林整備事業 市町村アンケート

送付数 15/回答数 12 回答率 80%

(1) 事業実施による効果

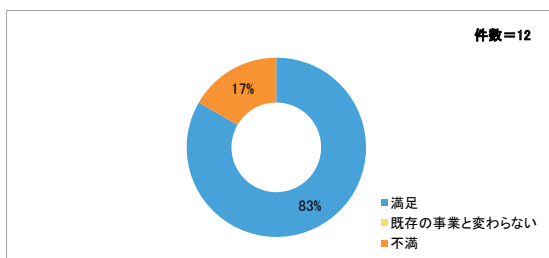
問1 あいち森と緑づくり人工林整備事業を実施した結果、貴市町村の森林が良くなったと感じますか。



事業実施の効果について、「良くなったと感じる」と答えた市町村の割合が100%となっている。

(2) 事業内容の満足度

問2 あいち森と緑づくり人工林整備事業の内容は、貴市町村の森林にとって満足できる事業ですか。



事業内容の満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が83%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合が17%となっている。

5

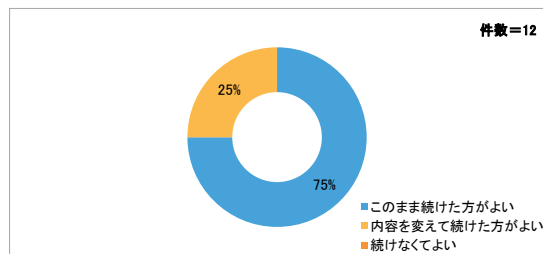
(3) 事業を進めるうえでの支障や課題

問3 あいち森と緑づくり人工林整備事業を進めるうえで、貴市町村では、どのような支障や課題がありましたか。

※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

(4) 今後の事業継続について

問4 あいち森と緑づくり人工林整備事業を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(75%)と「内容を変えて続けた方がよい」(25%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が100%となっている。

(5) 事業内容の変更点

問5 問2で「3、不満」又は問4で「2、内容を変えて続けた方がよい」と答えた市町村にお聞きします。

具体的にどのように内容を変えたら良くなると思いますか。

※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

6

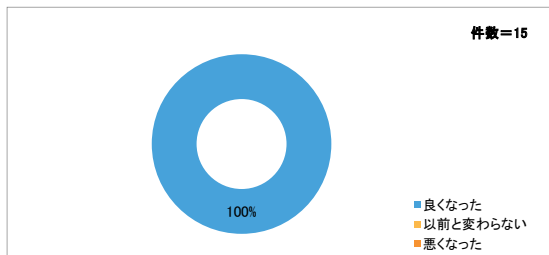
3 里山林整備事業 市町村アンケート（事業実施市町村）

送付数 21/回答数 17 回答率 81%

(1) 事業実施による効果

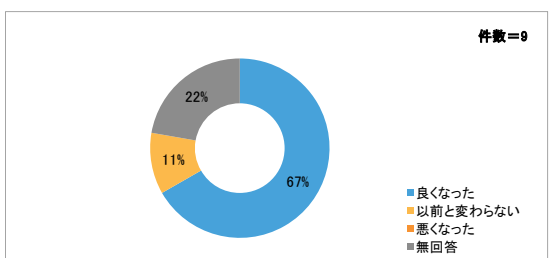
問1 次の里山林整備事業を実施した結果、貴市町村の森林が良くなったと感じますか

①提案型里山林整備事業（市町村交付金事業）について



事業実施による効果について、「良くなった」と答えた市町村の割合が100%となっている。

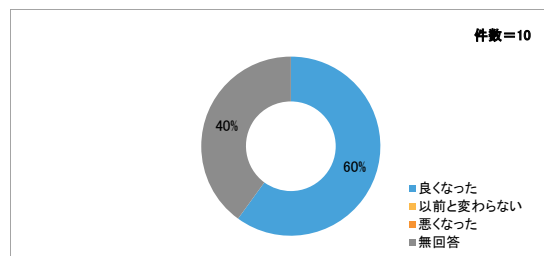
②里山林健全化整備事業（市町村交付金事業）について



事業実施による効果について、「良くなった」と答えた市町村の割合が67%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(11%)の順になっている。

7

③里山林再生整備事業（県営事業）について

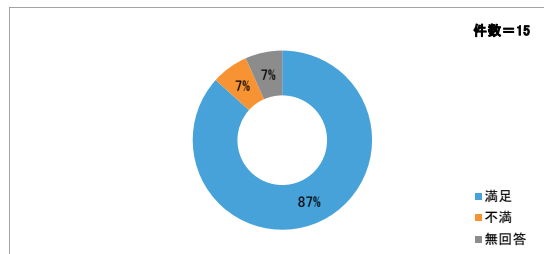


事業実施による効果について、「良くなった」と答えた市町村の割合が60%となっている。

(2) 事業内容の満足度

問2 実施した里山林整備事業は、貴市町村の里山林にとって満足できる内容でしたか

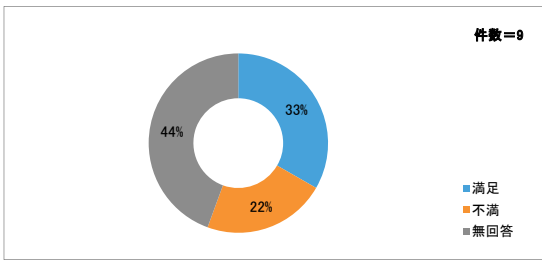
①提案型里山林整備事業（市町村交付金事業）について



事業内容の満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が87%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合は7%となっている。

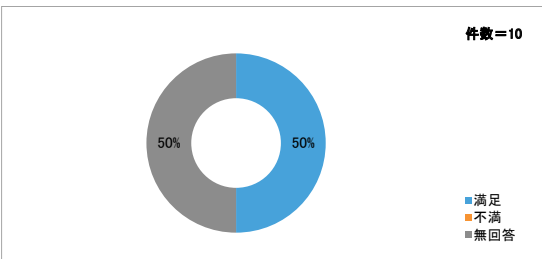
8

②里山林健全化整備事業（市町村交付金事業）について



事業内容の満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が33%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合は22%となっている。

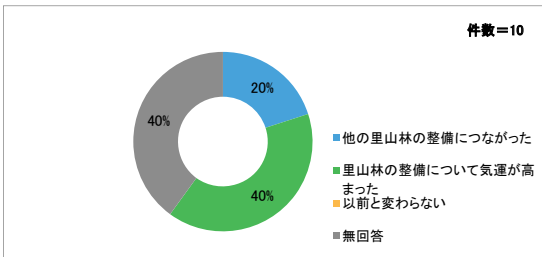
③里山林再生整備事業（県営事業）について



事業内容の満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が50%となっている。

9

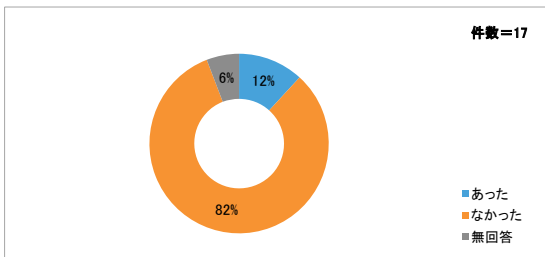
③里山林再生整備事業（県営事業）について



事業実施による波及効果について、「他の里山林の整備につながった」（20%）と「里山林の整備についての気運が高まった」（40%）を合わせた「効果があった」と答えた市町村の割合が60%となっている。

(4) 事業の不採択の有無

問4 地域の方々から、里山林整備事業の実施に向けての相談に対して、貴市町村の段階で不採択としたことがありますか。



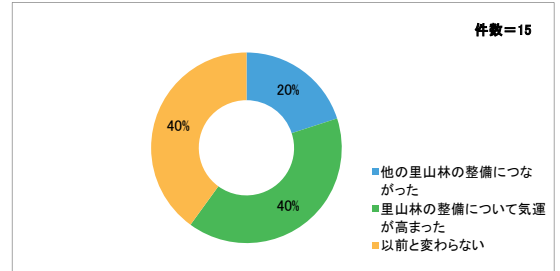
事業の不採択の有無について、「あった」と答えた市町村の割合が12%であったのに対し、「なかった」と答えた市町村の割合は82%となっている。

11

(3) 事業実施による波及効果

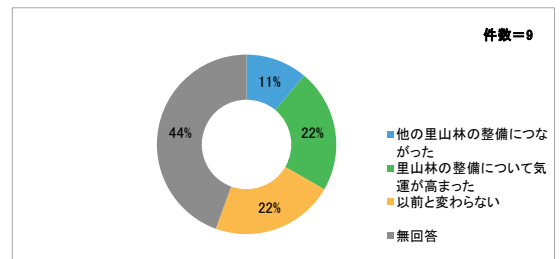
問3 里山林整備事業の実施後、貴市町村内の他の里山林の保全・活用に対する波及効果があったと思いますか。

①提案型里山林整備事業（市町村交付金事業）について



事業実施による波及効果について、「他の里山林の整備につながった」（20%）と「里山林の整備についての気運が高まった」（40%）を合わせた「効果があった」と答えた市町村の割合が60%であったのに対し、「以前と変わらない」と答えた市町村の割合は40%となっている。

②里山林健全化整備事業（市町村交付金事業）について

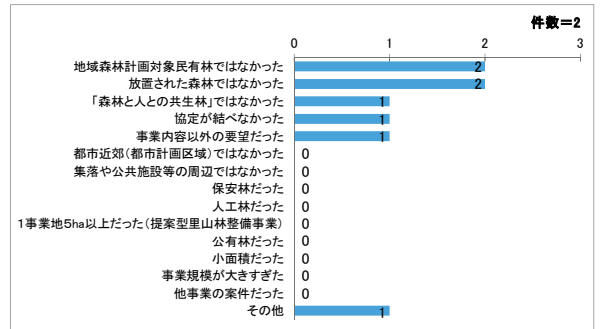


事業実施による波及効果について、「他の里山林の整備につながった」（11%）と「里山林の整備についての気運が高まった」（22%）を合わせた「効果があった」と答えた市町村の割合が33%であったのに対し、「以前と変わらない」と答えた市町村の割合は22%となっている。

10

(4-2) 事業の不採択の理由

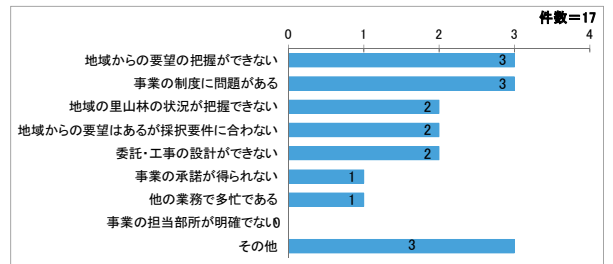
問4-2 (問4-1で「1. あった」と答えた市町村に) その理由は何ですか。(複数選択可)



事業の不採択の理由について、「地域森林計画対象民有林ではなかった」と「放置された森林ではなかった」と答えた市町村の数が2件と最も多くなっている。

(5) 事業推進にあたっての障害

問5 里山林整備事業を進めるにあたって、支障になっていることがありますか。

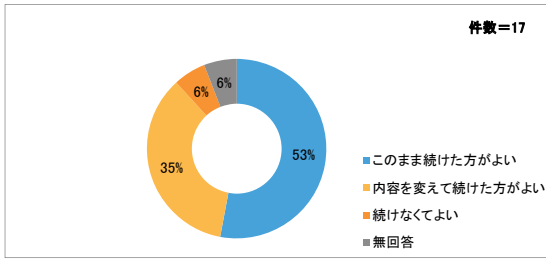


事業推進にあたっての障害について、「地域からの要望の把握ができない」と「事業の制度に問題がある」と答えた市町村の数が3件と最も多くなっている。

12

(6) 今後の事業継続について

問6 里山林整備事業を、平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(53%)と「内容を変えて続けた方がよい」(35%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が88%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は6%となっている。

(7) 事業内容の変更点

問7 問2で「2. 不満」又は問6で「2. 内容を変えて続けた方がよい」と答えた市町村にお聞きします。

具体的にどのように内容を変えたら良くなると思いますか。

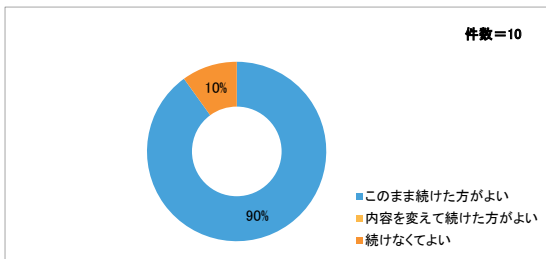
※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

問2-2 (問2-1で「1. あった」と答えた市町村に) その理由は何ですか。

※問2-1で「あった」と答えた市町村がなかったため、該当なし

(3) 今後の事業継続について

問3 あいち森と緑づくり事業による里山林整備事業を、平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



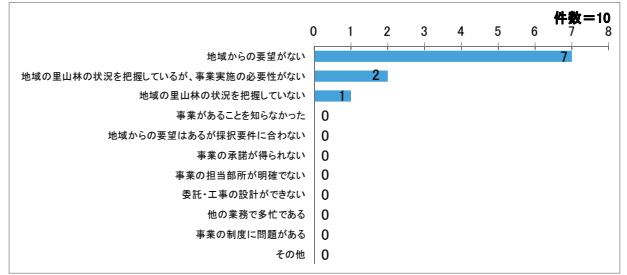
今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」と答えた市町村の割合が90%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は10%となっている。

4 里山林整備事業 市町村アンケート (事業未実施市町村)

送付数 14 / 回答数 10 回答率 71%

(1) 事業を実施していない理由

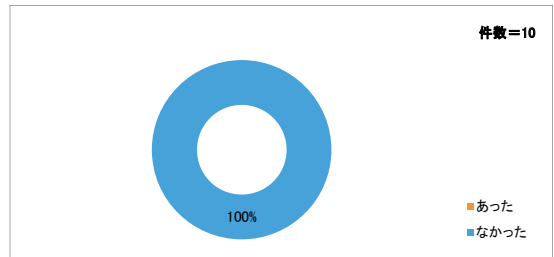
問1 貴市町村で、里山林整備事業を実施していない理由を教えてください。



事業を実施していない理由について、「地域からの要望がない」と答えた市町村の数が7件と最も多く、続いて「地域の里山林の状況を把握しているが、事業実施の必要性がない」(2件)、「地域の里山林の状況を把握していない」(1件)の順になっている。

(2) 事業の不採択の有無

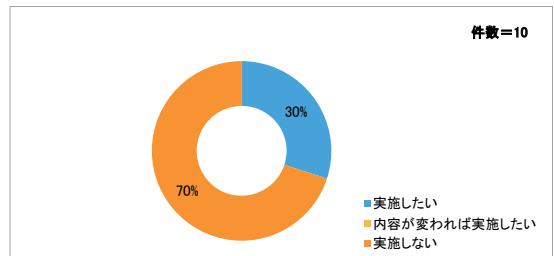
問2-1 地域住民等からの、里山林整備事業実施に向けた相談に対して、貴市町村の段階で不採択としたことがありますか。



事業の不採択の有無について、「なかった」と答えた市町村の割合が100%となっている。

(4) 今後の事業実施予定

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林整備事業を、平成31年度以降も続けていった場合、貴市町村では事業を実施したいと思いますか。



今後の事業実施予定について、「実施したい」と答えた市町村の割合が30%であったのに対し、「実施しない」と答えた市町村の割合は70%となっている。

(5) 事業内容の変更点

問5 問3で「2. 内容を変えて続けた方がよい」又は問4で「2. 内容が変われば実施したい」と答えた市町村にお聞きします。

具体的にどのように内容を変えたら良くなると思いますか。

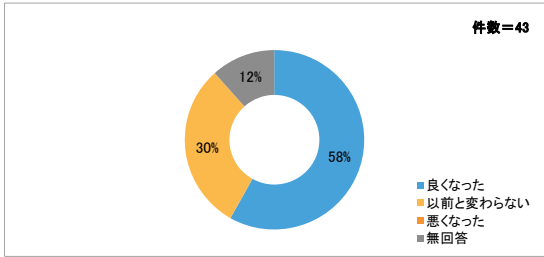
「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

5 都市緑化推進事業 市町村アンケート

送付数 54/回答数 43 回答率 80%

(1) 事業実施による都市の緑の状況変化

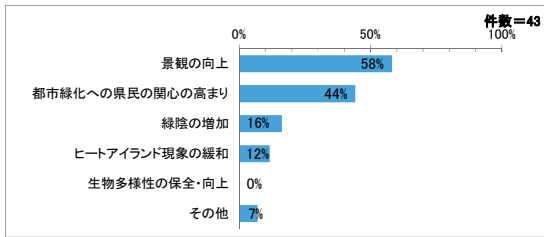
問1 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を実施した結果、貴市町村の都市の緑が良くなったと感じますか。



事業実施による都市の緑の状況変化について、「良くなった」と答えた市町村の割合が58%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(30%)の順になっている。

(2) 事業実施による効果（直接的効果）

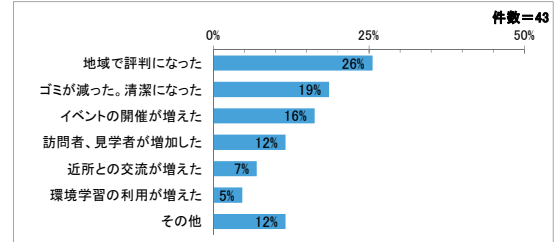
問2 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、実際に効果があったと感じることはありますか。（複数回答可）



事業実施による効果（直接的効果）について、「景観の向上」と答えた市町村の割合が58%と最も高く、続いて「都市緑化への県民の関心の高まり」(44%)、「緑陰の増加」(16%)の順になっている。

(3) 事業実施による効果（間接的効果）

問3 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施箇所において、良かったことはありますか。

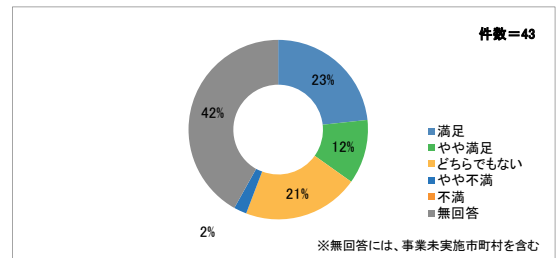


事業実施による効果（間接的効果）について、「地域で評判になった」と答えた市町村の割合が26%と最も高く、続いて「ゴミが減った。清潔になった」(19%)、「イベントの開催が増えた」(16%)の順になっている。

(4) 事業内容の満足度

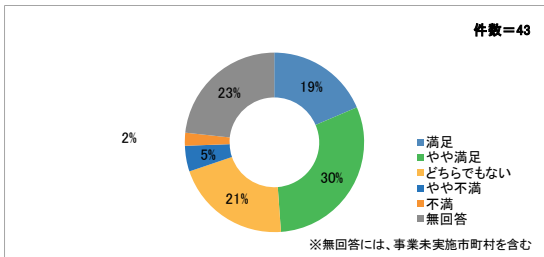
問4 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の内容は、貴市町村にとって満足できる事業ですか。

①身近な緑づくり事業（都市における樹林地の保全・創出を図る事業）



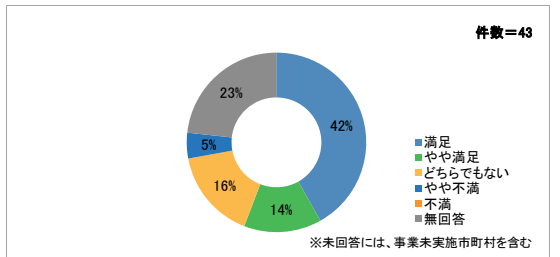
事業内容の満足度について、「満足」(23%)と「やや満足」(12%)を合わせた「満足」と答えた市町村の割合が35%であったのに対し、「やや不満」と答えた市町村の割合は2%となっている。

②緑の街並み推進事業（民有地の緑化を推進する事業）



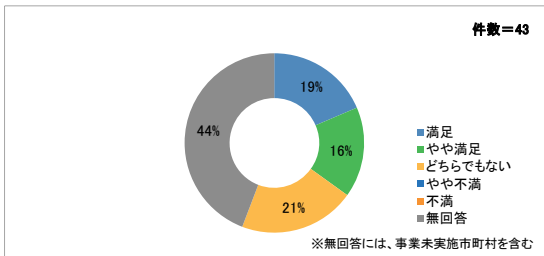
事業内容の満足度について、「満足」(19%)と「やや満足」(30%)を合わせた「満足」と答えた市町村の割合が49%であったのに対し、「やや不満」(5%)と「不満」(2%)を合わせた「不満」と答えた市町村の割合は7%となっている。

④県民参加緑づくり事業（県民参加での緑化活動等を推進する事業）



事業内容の満足度について、「満足」(42%)と「やや満足」(14%)を合わせた「満足」と答えた市町村の割合が56%であったのに対し、「やや不満」と答えた市町村の割合は5%となっている。

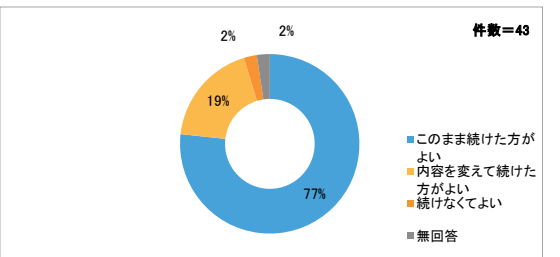
③美しい並木道再生事業（街路樹の植替えにより美しい並木道再生する事業）



事業内容の満足度について、「満足」(19%)と「やや満足」(16%)を合わせた「満足」と答えた市町村の割合が35%となっている。

(5) 今後の事業継続について

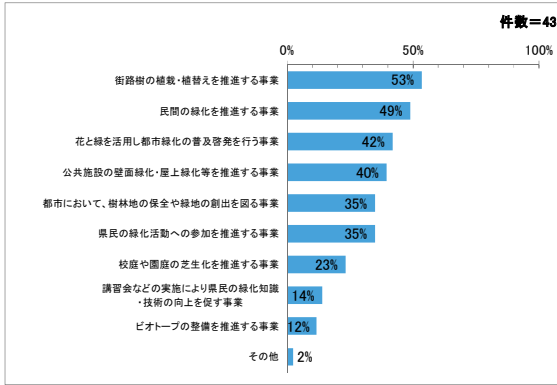
問5 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(77%)と「内容を変えて続けた方がよい」(19%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が96%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は2%となっている。

(6) 今後の事業のあり方

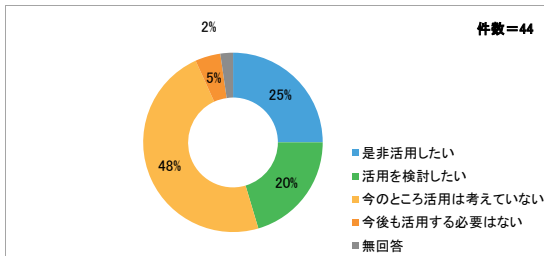
問6 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業では、どのような事業を行うことができれば良いと思いますか。



今後の事業のあり方について、「街路樹の植栽・植替えを推進する事業」と答えた市町村の割合が53%と最も高く、続いて「民間の緑化を推進する事業」(49%)、「花と緑を活用し都市緑化の普及啓発を行う事業」(42%)の順になっている。

(3) 今後の事業活用予定

問3 貴市町村(環境部局)は、交付団体として今後この事業を活用したいと考えますか。



今後の事業活用予定について、「是非活用したい」(25%)と「活用を検討したい」(20%)を合わせた「活用を考えている」と答えた市町村の割合が45%であったのに対し、「今のところ活用は考えていない」(48%)と「今後も活用する必要はない」(5%)を合わせた「活用を考えていない」と答えた市町村の割合は53%となっている。

(4-1) 今後、支援を受けたい活動

問 4-1 問3で「1. 是非活用したい」又は「2. 活用を検討したい」と回答された市町村にお聞きします。この事業では、交付対象事業を別表のとおりとしていますが、今後、この事業の交付金により支援を受けたいと考える活動があれば具体的にお願いします。

※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

(4-2) 事業を活用しない理由

問 4-2 問3で「3. 今のところ活用は考えていない」又は「4. 今後も活用する必要はない」と回答された市町村にお聞きします。この事業を活用しない理由をお願いします。

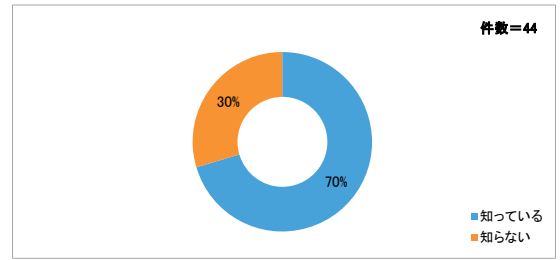
※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

6 環境活動・学習推進事業 市町村アンケート

送付数 54/回答数 44 回答率 81%

(1) 事業の認知度

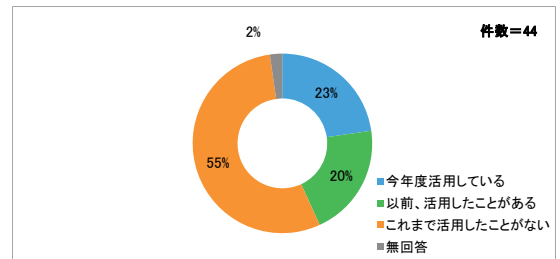
問1 あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業をご存じですか。



事業の認知度について、「知っている」と答えた市町村の割合が70%であったのに対し、「知らない」と答えた市町村の割合は30%となっている。

(2) 事業の活用状況

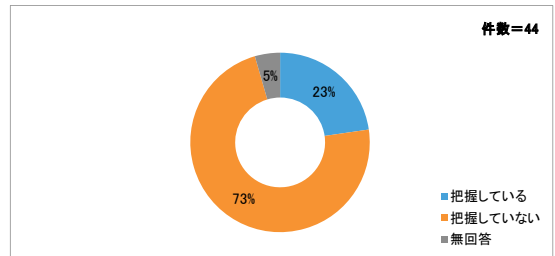
問2 貴市町村は、交付団体としてこの事業を活用していますか。



事業の活用状況について、「今年度活用している」(23%)と「以前、活用したことがある」(20%)を合わせた「活用したことがある」と答えた市町村の割合が43%であったのに対し、「これまで活用したことがない」と答えた市町村の割合は55%となっている。

(5) 事業実施団体の把握

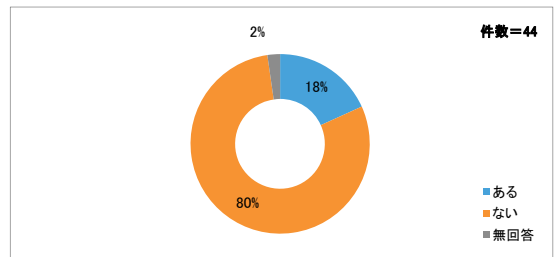
問5 貴市町村内においてこの事業を活用しているNPO等を把握していますか。



事業実施団体の把握について、「把握している」と答えた市町村の割合が23%であったのに対し、「把握していない」と答えた市町村の割合は73%となっている。

(6) 事業実施団体との関わり

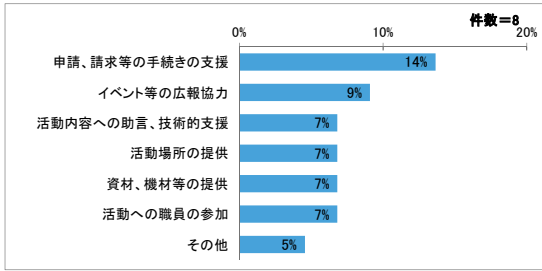
問6 貴市町村(環境部局)は、この事業を活用しているNPO等との関わりはありますか。



事業実施団体との関わりについて、「ある」と答えた市町村の割合が18%であったのに対し、「ない」と答えた市町村の割合は80%となっている。

(7) 事業実施団体との具体的な関わり

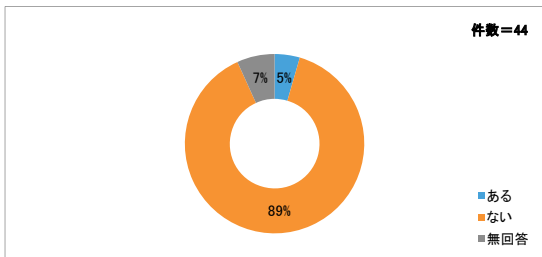
問7 問6で「1. ある」と回答された市町村にお聞きします。具体的にどのような関わりがありますか。



事業実施団体との具体的な関わりについて、「申請、請求等の手続きの支援」と答えた市町村の割合が14%と最も高く、続いて「イベント等の広報協力」(9%)、「活動内容への助言、技術的支援」等(7%)の順になっている。

(8) 事業実施団体からの要望の有無

問8 この事業について、NPO等から要望等を受けたことがありますか。ある場合は内容を具体的にお書きください。

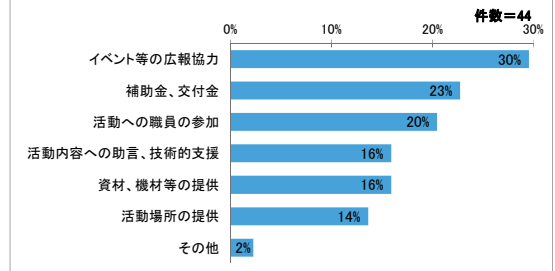


事業実施団体からの要望の有無について、「ある」と答えた市町村の割合が5%であったのに対し、「ない」と答えた市町村の割合は89%となっている。

25

(9) 環境活動・環境学習に関する独自施策

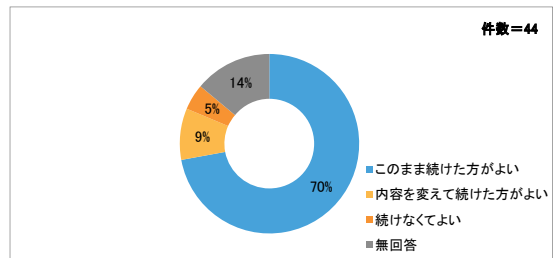
問9 環境活動・環境学習に関して、貴市町村の施策で独自にNPO等に対して行っているものをお答えください。



環境活動・環境学習に関する独自施策について、「イベント等の広報協力」と答えた市町村の割合が30%と最も高く、続いて「補助金、交付金」(23%)、「活動への職員の参加」(20%)の順になっている。

(10) 今後の事業継続について

問10 あいち森と緑づくり事業による環境活動・学習推進の取組を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(70%)と「内容を変えて続けた方がよい」(9%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が79%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は5%となっている。

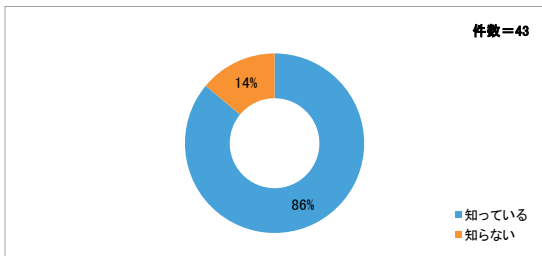
26

7 木の香る学校づくり推進事業 市町村アンケート

送付数 54/回答数 43 回答率 80%

(1) 事業の認知度

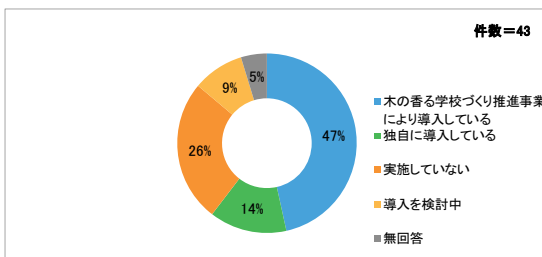
問1 木の香る学校づくり推進事業をご存じですか。



事業の認知度について、「知っている」と答えた市町村の割合が86%であったのに対し、「知らない」と答えた市町村の割合は14%となっている。

(2) 国産木材製品の導入状況

問2 県産木材に限らず、国産材を使った木製の机・椅子、下駄箱、ロッカーなどの導入を行っていますか。

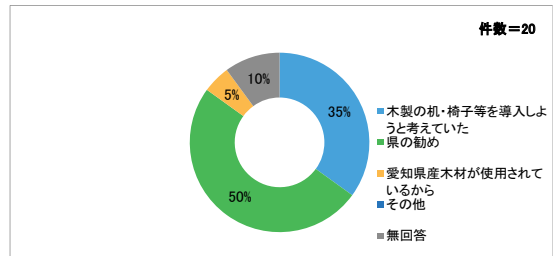


国産木材製品の導入状況について、「木の香る学校づくり推進事業により導入している」と答えた市町村の割合が47%と最も高く、続いて「実施していない」(26%)、「独自に導入している」(14%)の順になっている。

27

(3-1) 事業を利用したきっかけ

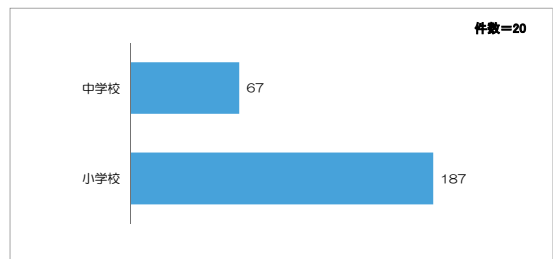
問3-1 「木の香る学校づくり推進事業」を利用したきっかけはなんですか。



事業を利用したきっかけについて、「県の勧め」と答えた市町村の割合が50%と最も高く、続いて「木製の机・椅子等を導入しようと考えていた」(35%)、「愛知県産木材が使用されているから」(5%)の順になっている。

(3-2) 事業を実施した学校数

問3-2 「木の香る学校づくり推進事業」を実施した学校は何校ありますか。
(平成21年度～平成28年度末)

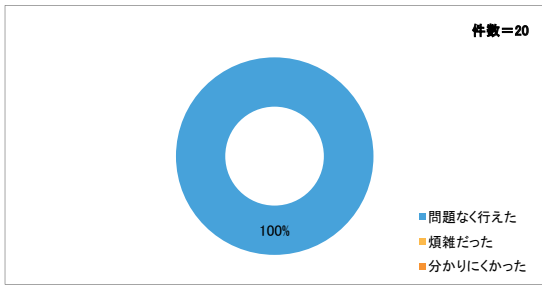


「小学校」が187校、「中学校」が67校実施している。
(回答のあった20市町村の内、2市町村は学校数の回答なし)

28

(3-3) 事業実施の手続き

問 3-3 事業実施のための事務手続きはスムーズに行えましたか。

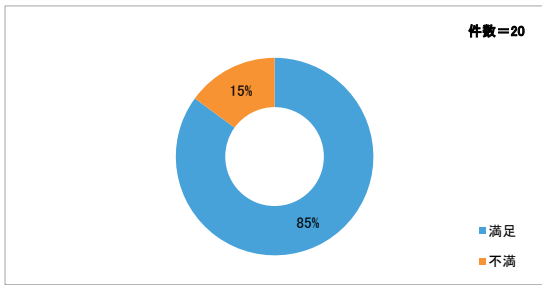


事業実施の手続きについて、「問題なく行えた」と答えた市町村の割合が100%となっている。

(3-4) 事業に対する満足度

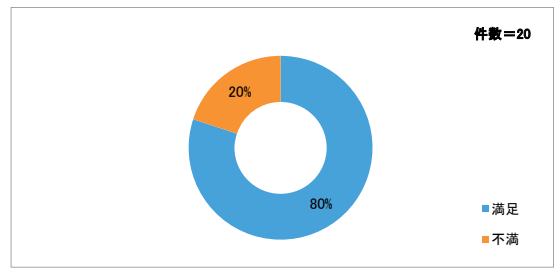
問 3-4 木の香る学校づくり推進事業（事業及び導入した机・椅子等）は貴市町村にとって満足できるものでしたか。

① 事業について



事業に対する満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が85%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合は15%となっている。

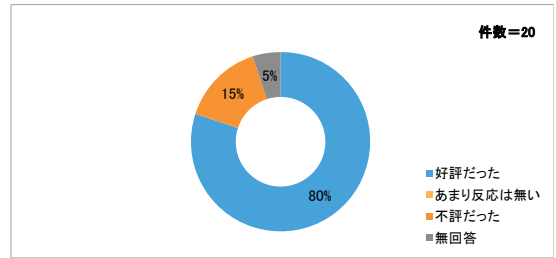
② 導入した机・椅子について



導入した机・椅子の満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が80%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合は20%となっている。

(3-5) 事業実施校の反応

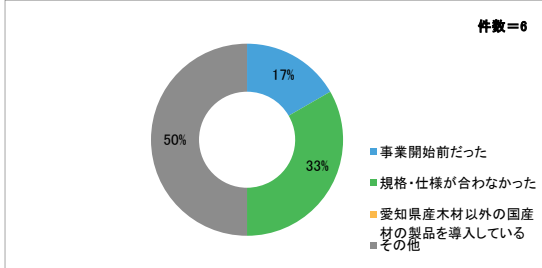
問 3-5 事業を実施した学校の反応はいかがでしたか。



事業実施校の反応について、「好評だった」と答えた市町村の割合が80%であったのに対し、「不評だった」と答えた市町村の割合は15%となっている。

(4-1) 事業を利用しなかった理由（独自に導入した市町村）

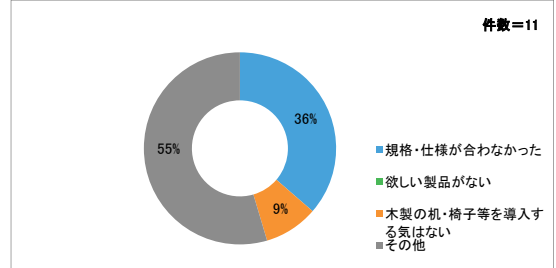
問 4-1 木の香る学校づくり推進事業を利用しなかった理由は何ですか。



事業を利用しなかった理由について、「規格・仕様が合わなかった」と答えた市町村の割合が33%と最も高く、続いて「事業開始前だった」（17%）になっている。

(5) 事業を実施しない理由（未導入市町村）

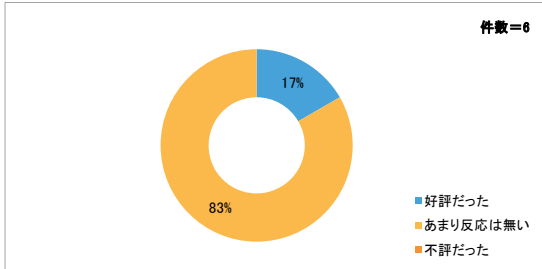
問 5 木の香る学校づくり推進事業を実施していない理由は何ですか。



事業を実施しない理由について、「規格・仕様が合わなかった」と答えた市町村の割合が36%と最も高く、続いて「木製の机・椅子等を導入する気はない」（9%）になっている。

(4-2) 木製机・椅子等の導入校の反応（独自に導入した市町村）

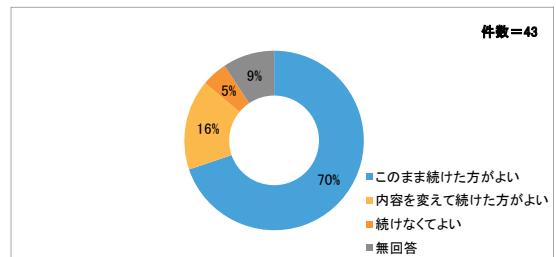
問 4-2 木製机・椅子等を導入した学校の反応はいかがでしたか。



木製机・椅子等の導入校の反応について、「あまり反応は無い」と答えた市町村の割合が83%と最も高く、続いて「好評だった」（17%）になっている。

(6) 今後の事業継続について

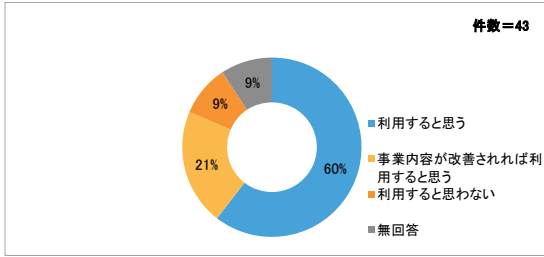
問 6 木の香る学校づくり推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」（70%）と「内容を変えて続けた方がよい」（16%）を合わせた“続けた方がよい”と答えた市町村の割合が86%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は5%となっている。

(7) 今後の事業利用について

問7 木の香る学校づくり推進事業を平成31年度以降も続けていった場合、木製机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入する時は、事業を利用しようと思いますか。



今後の事業利用について、「利用すると思う」(60%)と「事業内容が改善されれば利用すると思う」(21%)を合わせた「利用すると思う」と答えた市町村の割合が81%であったのに対し、「利用すると思わない」と答えた市町村の割合は9%となっている。

(8) 事業内容の変更点

問8 問3-4で「2. 不満」、問3-5で「3. 不評だった」、問6で「2. 内容を変えて続けた方がよい」又は問7で「2. 事業内容が改善されれば利用すると思う」と答えた市町村にお聞きします。

具体的にどのように内容を変えたら良くなると思いますか。

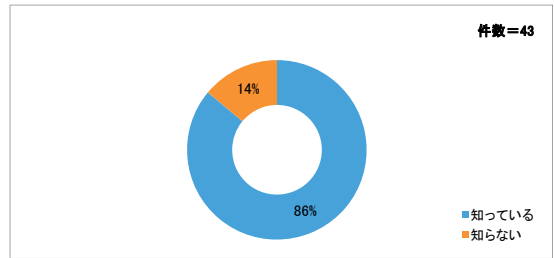
※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

8 愛知県産木材利活用推進事業 市町村アンケート

送付数 54/回答数 43 回答率 80%

(1) 事業の認知度

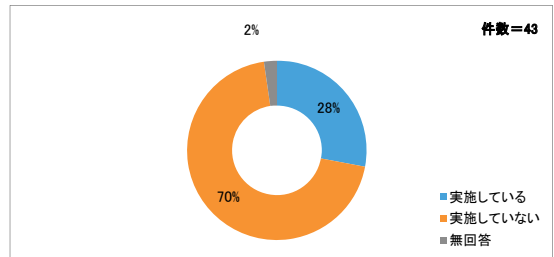
問1 愛知県産木材利活用推進事業をご存じですか。



事業の認知度について、「知っている」と答えた市町村の割合が86%であったのに対し、「知らない」と答えた市町村の割合は14%となっている。

(2) 事業の実施状況

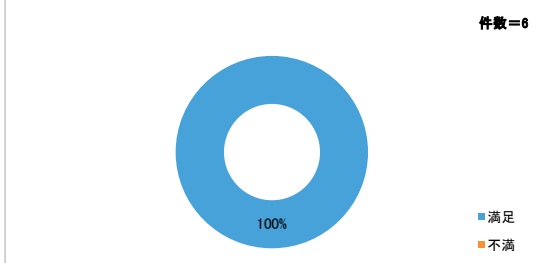
問2 この事業を活用して、間伐材の搬出促進または愛知県産木材を利用した木製ベンチの導入を行っていますか。



事業の実施状況について、「実施している」と答えた市町村の割合が28%であったのに対し、「実施していない」と答えた市町村の割合は70%となっている。

(3-1) 事業に対する満足度(間伐材の搬出促進)

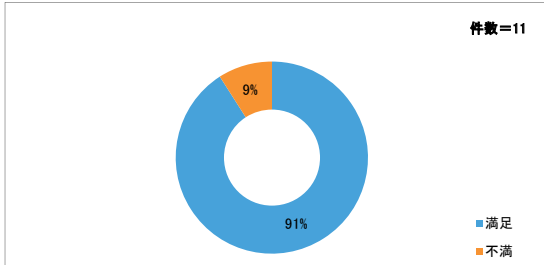
問3-1 間伐材の搬出促進について、貴市町村にとって満足できるものでしたか。



事業(間伐材の搬出促進)に対する満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が100%となっている。

(3-2) 事業に対する満足度(ベンチ導入)

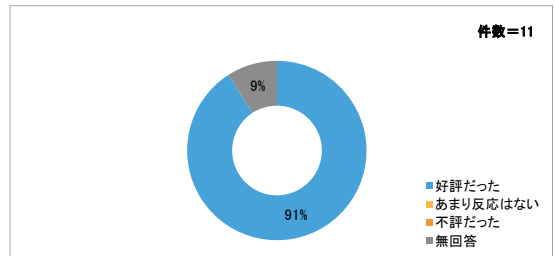
問3-2 ベンチ導入について、貴市町村にとって満足できるものでしたか。



事業(ベンチ導入)に対する満足度について、「満足」と答えた市町村の割合が91%であったのに対し、「不満」と答えた市町村の割合は9%となっている。

(3-3) ベンチ導入施設の利用者の反応

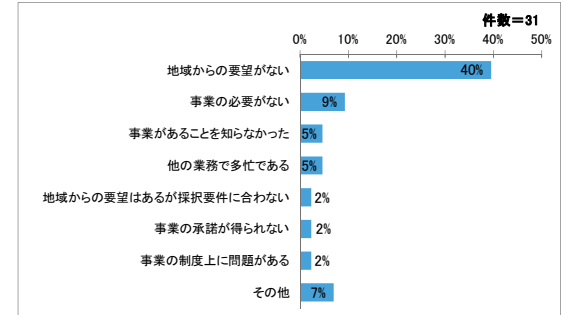
問3-3 ベンチを導入した施設の利用者の反応はいかがでしたか。



ベンチ導入施設の利用者の反応について、「好評だった」と答えた市町村の割合が91%となっている。

(4) 事業を実施していない理由

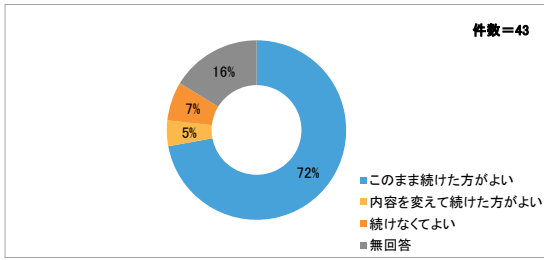
問4-1 これまで、この事業を実施していない理由を教えてください。



事業を実施していない理由について、「地域からの要望がない」と答えた市町村の割合が40%と最も高く、続いて「事業の必要がない」(9%)、「事業があることを知らなかった」(5%)、「他の業務で多忙である」(5%)の順になっている。

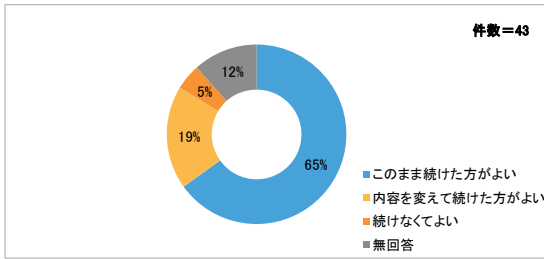
(5) 今後の事業継続について

問 5-1 間伐材の搬出促進の支援を平成 31 年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(72%)と「内容を変えて続けた方がよい」(5%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が77%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は7%となっている。

問 5-2 ベンチ導入の支援を平成 31 年度以降も続けた方がよいと思いますか。



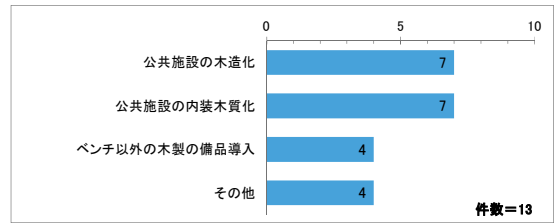
今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(65%)と「内容を変えて続けた方がよい」(19%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた市町村の割合が84%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた市町村の割合は5%となっている。

(6) 事業内容の変更点

問 6-1 間伐材の搬出促進の支援について、どのような内容に変えたらよいと思いますか。

※「その他、この事業に対する自由意見等」を参照

問 6-2 ベンチ導入の支援について、どのような内容に変えたらよいと思いますか。



事業内容の変更点について、「公共施設の木造化」と「公共施設の内装木質化」と答えた市町村の数が7件と最も多く、続いて「ベンチ以外の木製の備品導入」(4件)になっている。

(4) 事業関係者アンケート

1 調査の概要

(1) 調査目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、事業関係者の事業に対する有効性・満足度・今後の期待度等の把握をし、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) アンケート調査の項目と回答率

調査の項目	送付数	回答数	回答率
1 人工林整備事業 森林所有者アンケート	300	203	68%
2 人工林整備事業 事業者アンケート	62	50	81%
3 里山林整備事業 森林所有者アンケート	100	66	66%
4 里山林整備事業 地域活動団体アンケート	40	38	95%
5 森林整備技術者養成研修 事業者アンケート	36	27	75%
6 森林整備技術者養成研修 受講者アンケート	212	103	49%
7 都市緑化推進事業 芝生化事業者アンケート	81	49	60%
8 都市緑化推進事業 民間事業者アンケート	123	88	72%
9 環境活動・学習推進事業 事業実施団体アンケート	109	83	76%
10 木の香る学校づくり推進事業 導入校アンケート	100	40	40%
11 木の香る学校づくり推進事業 製造業者アンケート	10	7	70%
12 愛知県産木材利活用推進事業（木製ベンチ導入）導入施設アンケート	20	16	80%
13 愛知県産木材利活用推進事業（木製ベンチ導入）製造業者アンケート	10	5	50%

1

(3) 調査設計

- ①調査地域 愛知県
- ②調査対象 学校関係者、森林所有者、地域活動団体、森林整備事業者、机・椅子製造販売業者
- ③標本数 1504
- ④抽出方法 2、4～7、9、11～13については、全数調査
1、3、8、10については、層化無作為抽出法
- ⑤調査方法 郵送法
- ⑥調査期間 平成29年6月30日～7月19日

(4) 調査委託先

合同会社KURIO

(5) 回収結果

- ①標本数 1504
- ②回収数 1014 (67.4%)

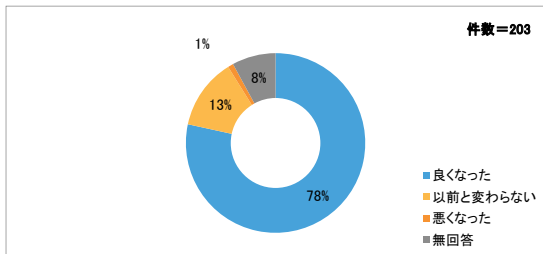
2

1 人工林整備事業 森林所有者アンケート

送付数 300/回答数 203 回答率 68%

(1) 事業実施による効果

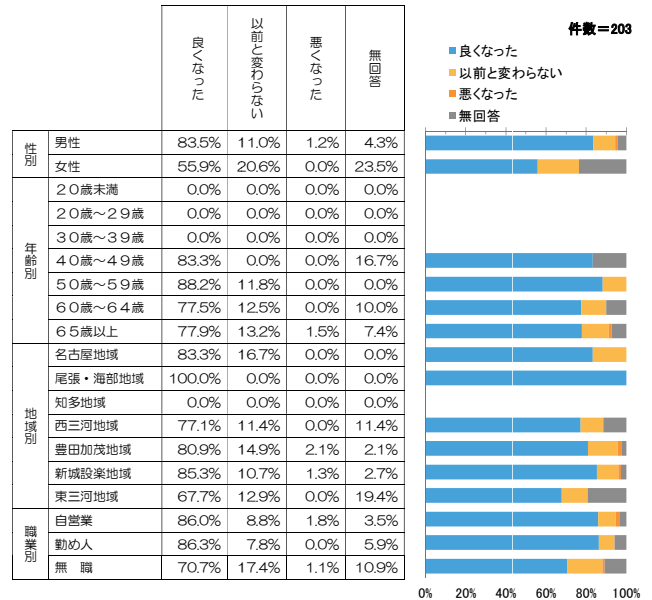
問1 あいち森と緑づくり事業で行った間伐で、あなたの森林が良くなったと思いますか。



事業実施による効果について、「良くなった」と答えた人の割合が78%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(13%)、「悪くなった」(1%)の順になっている。

3

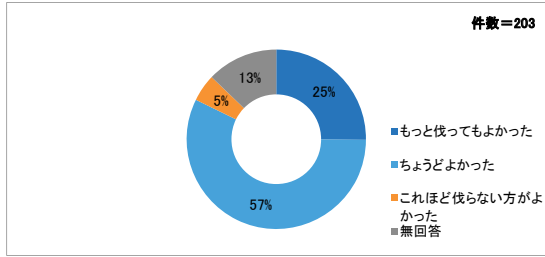
事業実施による効果（性別、年齢別、地域別、職業別）



4

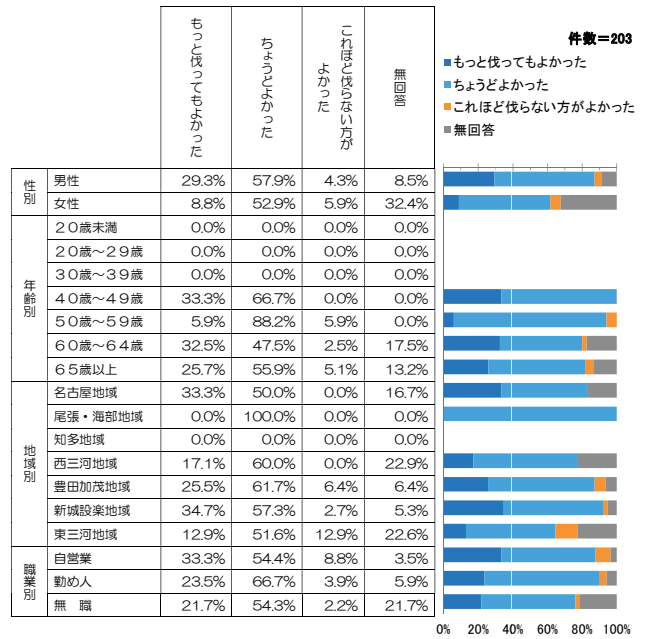
(2) 強度の間伐について

問 2 林業で一般的に行われる間伐よりも強度な間伐（本数率で約 40%）を実施して、どう思いましたか。



強度の間伐について、「ちょうどよかった」と答えた人の割合が57%と最も高く、続いて「もっと伐ってもよかった」（25%）、「これほど伐らない方がよかった」（5%）の順になっている。

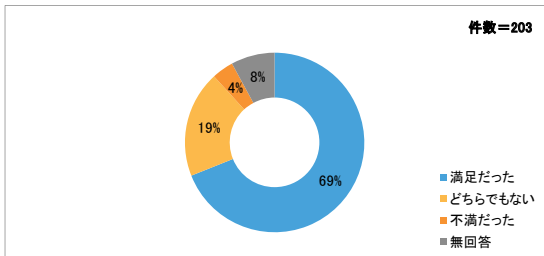
強度の間伐について（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

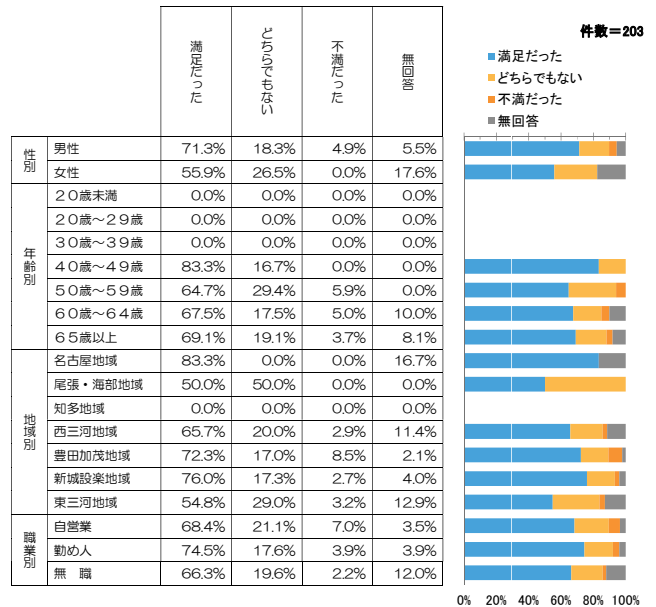
(3) 事業に対する満足度

問 4 あいち森と緑づくり事業で行った間伐は、あなたにとって満足できるものでしたか。



事業に対する満足度について、「満足だった」と答えた人の割合が69%と最も高く、続いて「どちらでもない」（19%）、「不満だった」（4%）の順になっている。

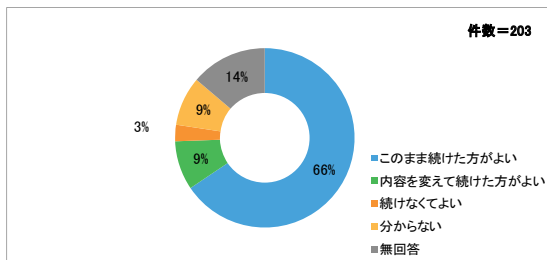
事業に対する満足度（性別、年齢別、地域別、職業別）



0% 20% 40% 60% 80% 100%

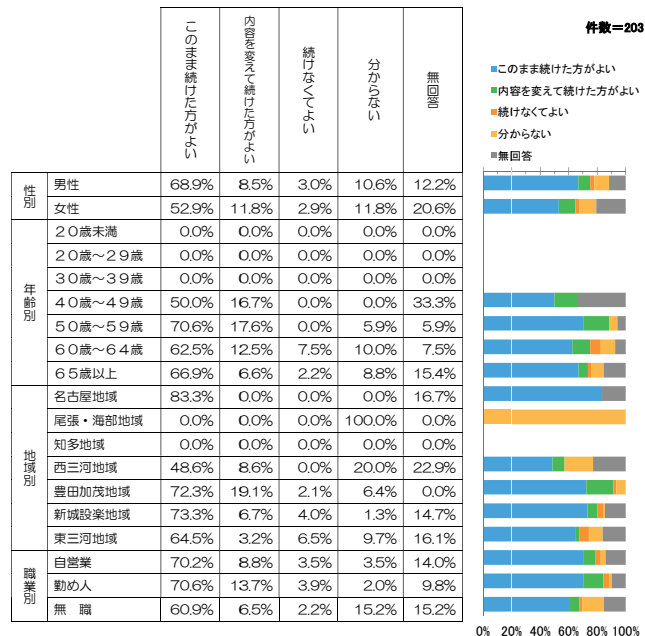
(4) 今後の事業継続について

問4 あいち森と緑づくり事業による間伐を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(66%)と「内容を変えて続けた方がよい」(9%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が75%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は3%となっている。

今後の事業継続について (性別、年齢別、地域別、職業別)



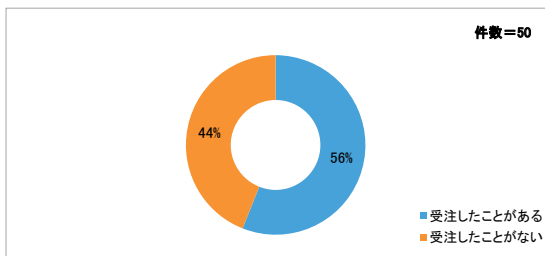
0% 20% 40% 60% 80% 100%

2 人工林整備事業 事業体アンケート

送付数 62/回答数 50 回答率 81%

(1) 事業受注の有無

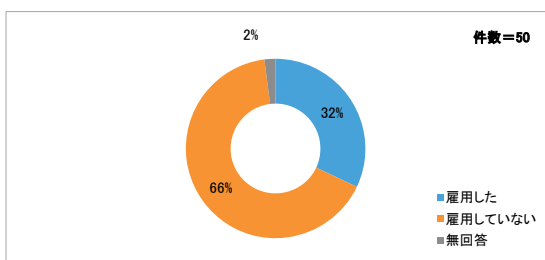
問1 貴社は、あいち森と緑づくり事業(人工林整備事業)を受注したことがありますか。



事業受注の有無について、「受注したことがある」と答えた人の割合が56%であったのに対し、「受注したことがない」と答えた人の割合は44%となっている。

(2) 事業開始による新規雇用の有無

問2 貴社は、あいち森と緑づくり事業が始まったことをきっかけに新規就労者を雇いましたか。

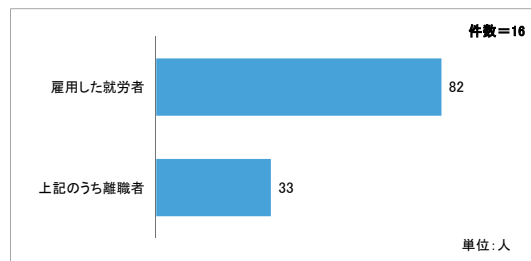


事業開始による新規雇用の有無について、「雇用した」と答えた人の割合が32%であったのに対し、「雇用していない」と答えた人の割合は66%となっている。

(3) 新規就労者の事業への従事状況

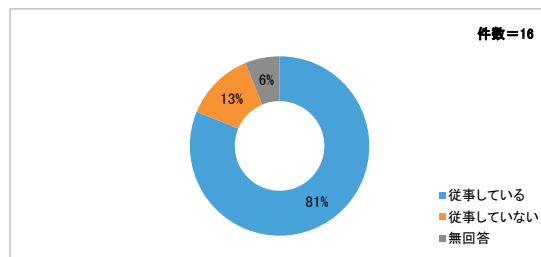
問3 問2で「1. 雇用した」と答えた方にお聞きします。

①雇用した就労者は何人ですか。



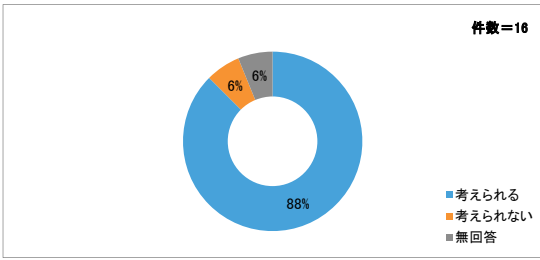
雇用した就労者82人の内、離職者が33人となっている。

②雇用した就労者はあいち森と緑づくり事業に従事しています(していました)か。



新規就労者の事業への従事状況について、「従事している」と答えた人の割合が81%であったのに対し、「従事していない」と答えた人の割合は13%となっている。

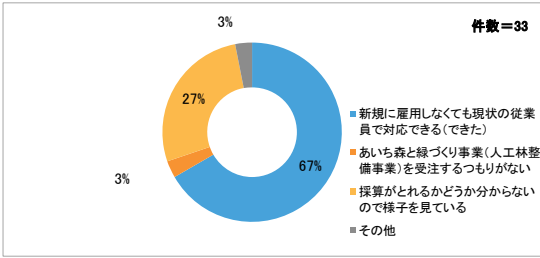
③あいち森と緑づくり事業が会社の雇用に効果があった(雇用するきっかけとなった)と考えられますか。



事業の雇用効果について、「考えられる」と答えた人の割合が88%であったのに対し、「考えられない」と答えた人の割合は6%となっている。

(4) 新規雇用しなかった理由

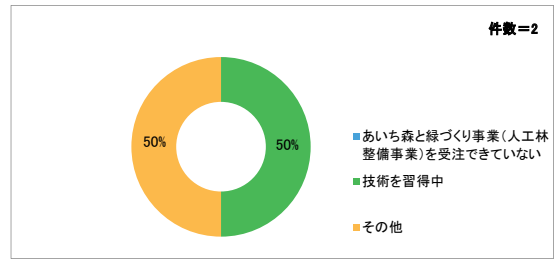
問4 問2で「2. 雇用していない」と答えた方にお聞きします。雇用しなかった理由は何ですか。



新規雇用しなかった理由について、「新規に雇用しなくても現状の従業員で対応できる(できた)」と答えた人の割合が67%と最も高く、続いて「採算がとれるかどうか分からないので様子を見ている」(27%)、「あいち森と緑づくり事業(人工林整備事業)を受注するつもりがない」(3%)の順になっている。

(5) 事業に従事していない理由

問5 問3-2で「2. 従事していない」と答えた方にお聞きします。従事していない理由は何ですか。



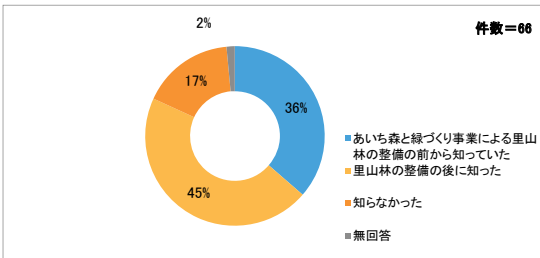
事業に従事していない理由について、「技術を習得中」と「その他」と答えた人の割合が50%となっている。

3 里山林整備事業 森林所有者アンケート

送付数 100/回答数 66 回答率 66%

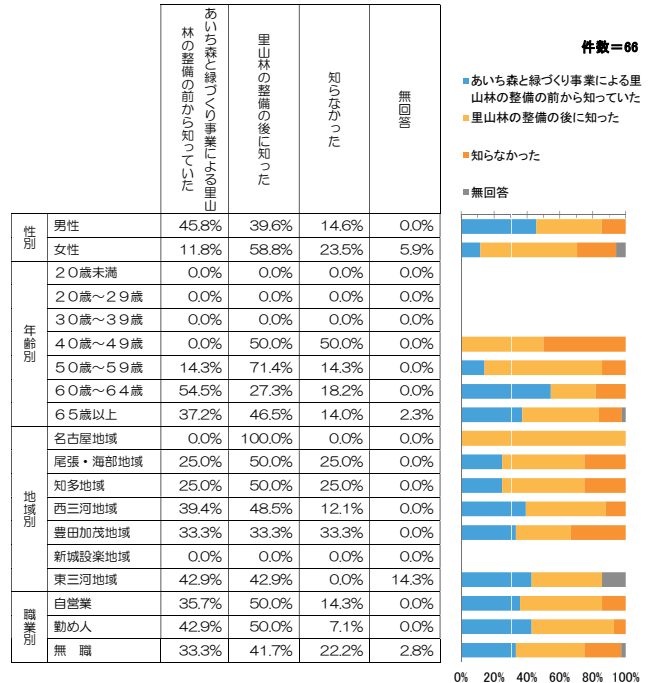
(1) 里山林整備の認知度

問1 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていましたか。



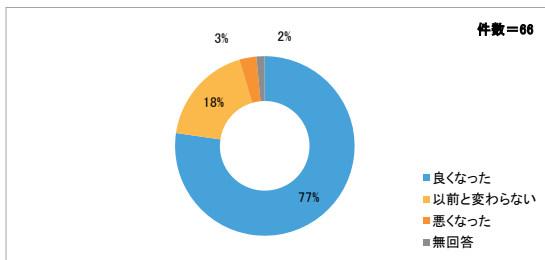
里山林整備の認知度について、「里山林の整備の後に知った」と答えた人の割合が45%と最も高く、続いて「あいち森と緑づくり事業による里山林の整備の前から知っていた」(36%)、「知らなかった」(17%)の順になっている。

里山林整備の認知度について(性別、年齢別、地域別、職業別)



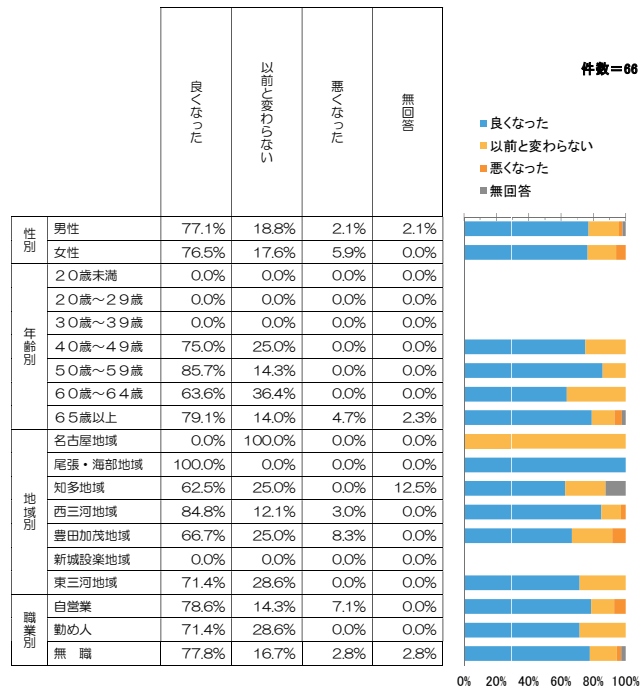
(2) 事業実施による効果

問2 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備で、あなたの森林が良くなったと思いますか。



事業実施による効果について、「良くなった」と答えた人の割合が77%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(18%)、「悪くなった」(3%)の順になっている。

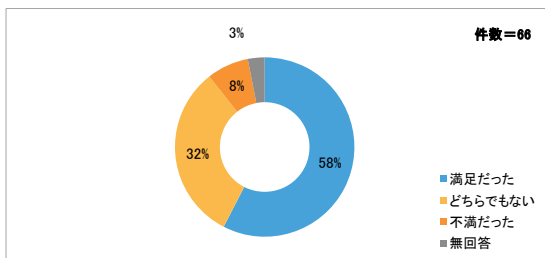
事業実施による効果 (性別、年齢別、地域別、職業別)



0% 20% 40% 60% 80% 100%

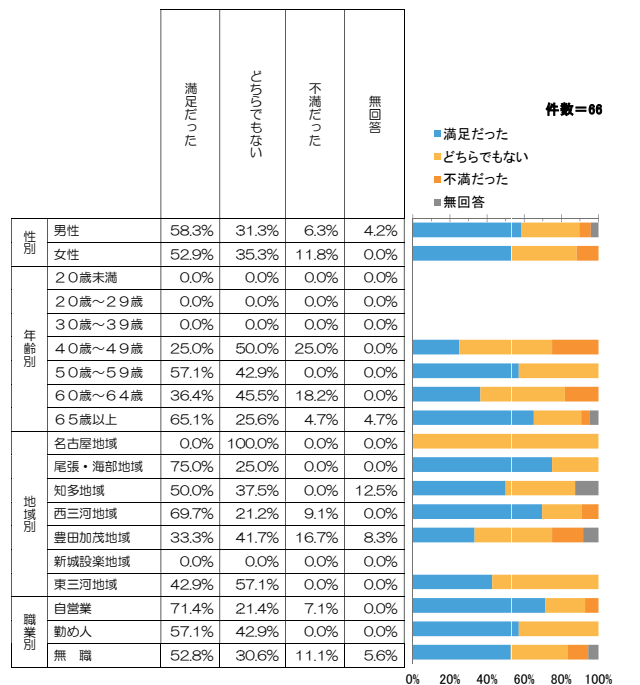
(3) 事業に対する満足度

問3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備は、あなたにとって満足できるものでしたか。



事業に対する満足度について、「満足だった」と答えた人の割合が58%と最も高く、続いて「どちらでもない」(32%)、「不満だった」(8%)の順になっている。

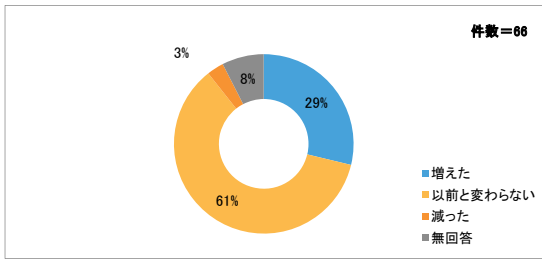
事業に対する満足度 (性別、年齢別、地域別、職業別)



0% 20% 40% 60% 80% 100%

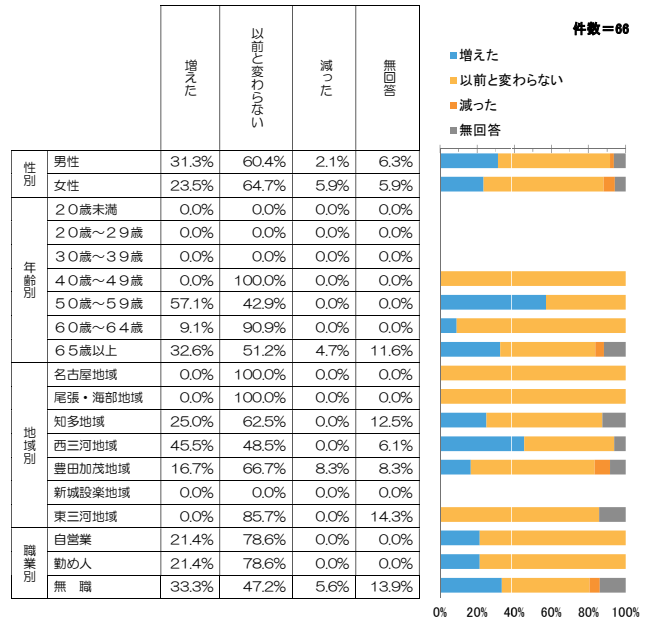
(4) 整備後に森林に行く回数

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を行ったことで、あなたはその森林に行く回数が増えましたか。



整備後に森林に行く回数について、「以前と変わらない」と答えた人の割合が61%と最も高く、続いて「増えた」(29%)、「減った」(3%)の順になっている。

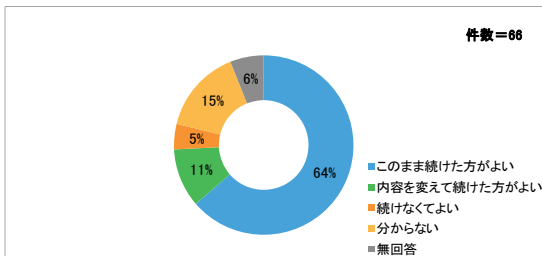
整備後に森林に行く回数 (性別、年齢別、地域別、職業別)



0% 20% 40% 60% 80% 100%

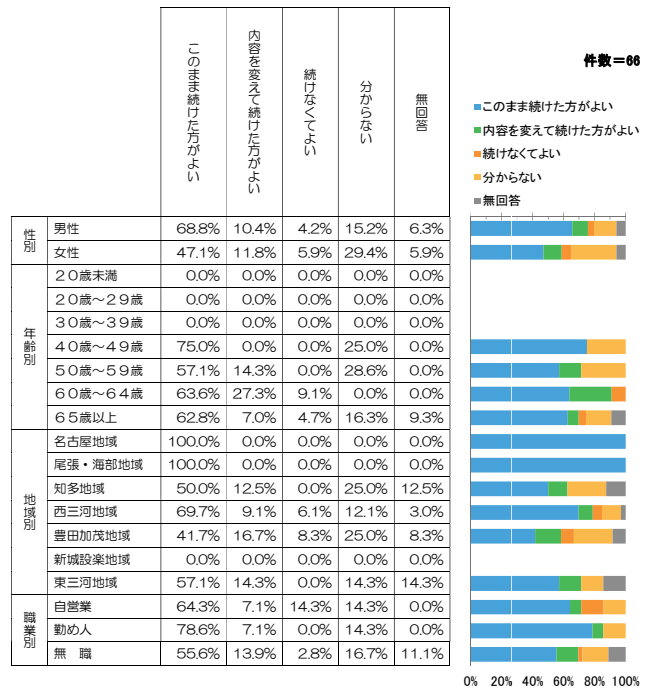
(5) 今後の事業継続について

問5 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(64%)と「内容を変えて続けた方がよい」(11%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が75%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は5%となっている。

今後の事業継続について (性別、年齢別、地域別、職業別)



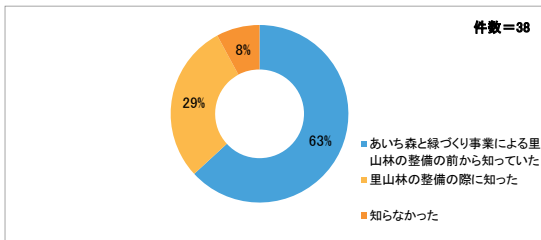
0% 20% 40% 60% 80% 100%

4 里山林整備事業 地域活動団体アンケート

送付数 40/回答数 38 回答率 95%

(1) 里山林整備の認知度

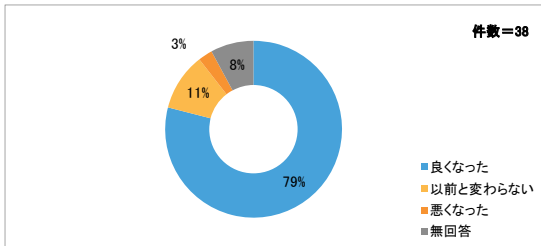
問1 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていますか。



里山林整備の認知度について、「あいち森と緑づくり事業による里山林の整備の前から知っていた」と答えた人の割合が63%と最も高く、続いて「里山林の整備の際に知った」(29%)、「知らなかった」(8%)の順になっている。

(2) 事業実施による森林の変化

問2 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備で、あなたがたが関わっている森林が良くなったと思いますか。

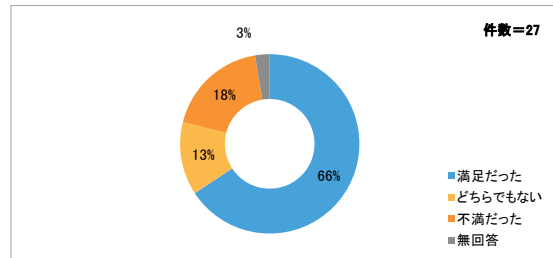


事業実施による森林の変化について、「良くなった」と答えた人の割合が79%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(11%)、「悪くなった」(3%)の順になっている。

25

(3) 事業に対する満足度

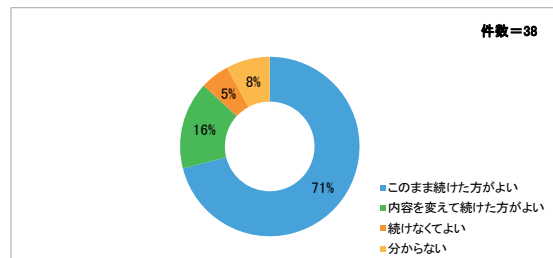
問3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備は、あなたがたにとって満足できるものでしたか。



事業実施に対する満足度について、「満足だった」と答えた人の割合が66%と最も高く、続いて「不満だった」(18%)、「どちらでもない」(13%)の順になっている。

(4) 今後の事業継続について

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、県内の各地で平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(71%)と「内容を変えて続けた方がよい」(16%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が87%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は5%となっている。

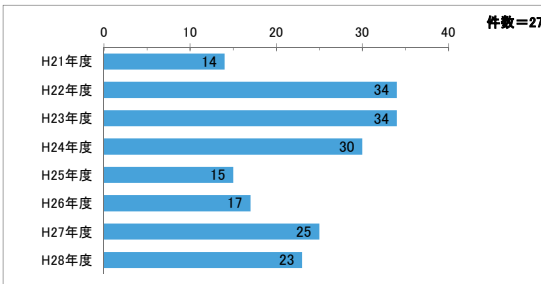
26

5 森林整備技術者養成研修 事業者アンケート

送付数 36/回答数 27 回答率 75%

(1) 受講者数の状況

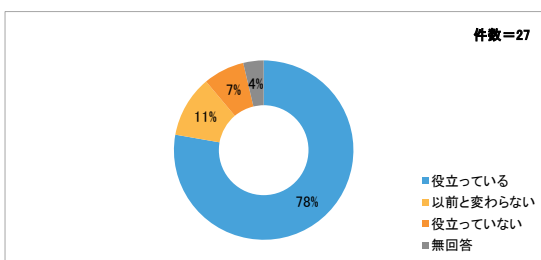
問1 貴社から何人の受講生が参加しましたか。



受講者数の状況について、「H22年度」と「H23年度」が34人と最も多く、続いて「H24年度」(30人)、「H27年度」(25人)の順になっている。

(2) 研修の有効性

問2 受講生の習得した技術が実際の現場で役立っていますか。

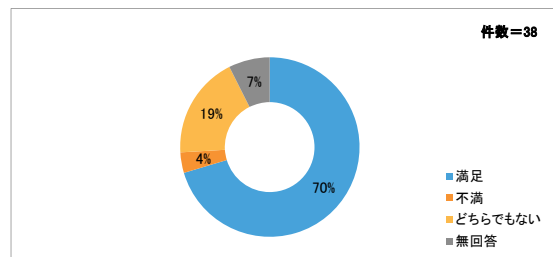


研修の有効性について、「役立っている」と答えた人の割合が78%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(11%)、「役に立っていない」(7%)の順になっている。

27

(3) 研修内容の満足度

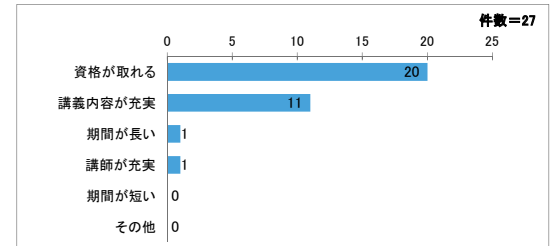
問3 研修(全般)は満足できるものでしたか。



研修内容の満足度について、「満足」と答えた人の割合が70%と最も高く、続いて「どちらでもない」(19%)、「不満」(4%)の順になっている。

(4) 研修の良かった点

問4 講義内容ではどういった点が満足でしたか。

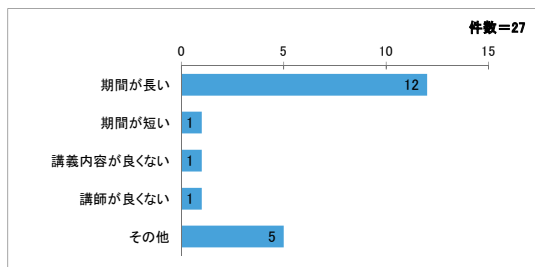


研修の良かった点について、「資格が取れる」と答えた人の数が20人と最も多く、続いて「講義内容が充実」(11人)となっている。

28

(5) 研修の悪かった点

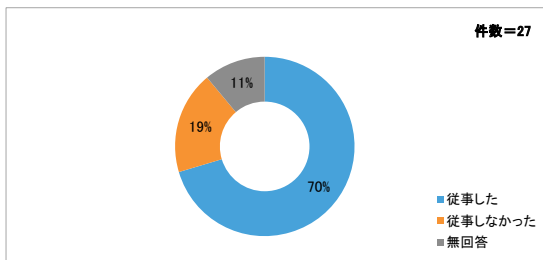
問5 研修内容ではどのような点が不満でしたか。



研修の悪かった点について、「期間が長い」と答えた人の数が12人と最も多くなっている。

(6) 受講者の事業への従事の有無

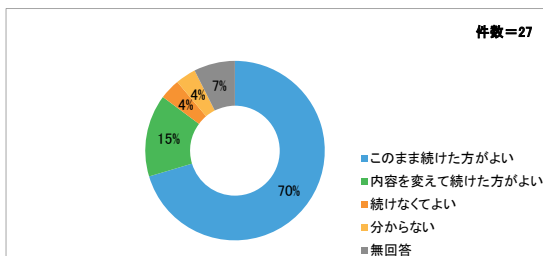
問6 貴社から研修を受講した作業員は、あいち森と緑づくり事業に従事しましたか。



受講者の事業への従事の有無について、「従事した」と答えた人の割合が70%であったのに対し、「従事しなかった」と答えた人の割合は19%となっている。

(9) 今後の事業継続について

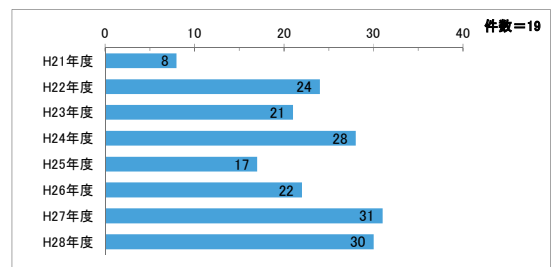
問9 あいち森と緑づくり事業による森林整備技術者養成研修を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(70%)と「内容を変えて続けた方がよい」(15%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が85%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は4%となっている。

(7) 受講者の事業への従事数

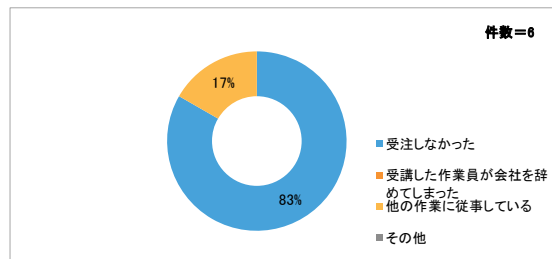
問7 問6で「1. 従事した」と答えた方にお聞きします。何人の方が従事しましたか。



受講者の事業への従事数について、「H27年度」が31人と最も多く、続いて「H28年度」(30人)、「H24年度」(28人)の順になっている。

(8) 従事しなかった理由

問8 問6で「2. 従事しなかった」と答えた方にお聞きします。従事しなかった理由は何ですか。



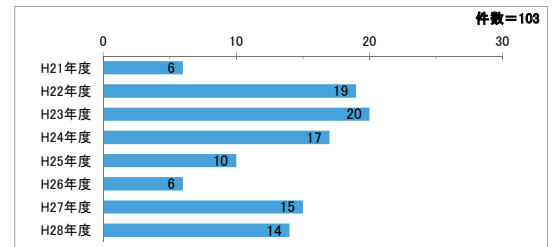
従事しなかった理由について、「受注しなかった」と答えた人の割合が83%であったのに対し、「他の作業に従事している」と答えた人の割合は17%となっている。

6 森林整備技術者養成研修 受講者アンケート

送付数 212 / 回答数 103 回答率 49%

(1) 受講年度の状況

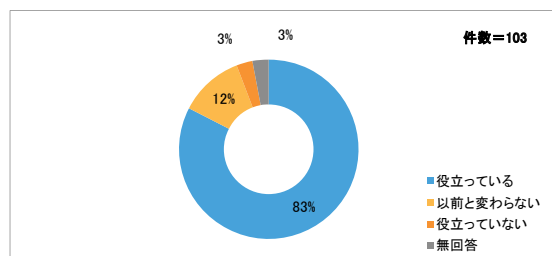
問1 研修はいつ受講しましたか。(研修終了年度でお答えください)



受講年度の状況について、「H23年度」と答えた人の数が20人と最も多く、続いて「H22年度」(19人)、「H24年度」(17人)の順になっている。

(2) 研修の有効性

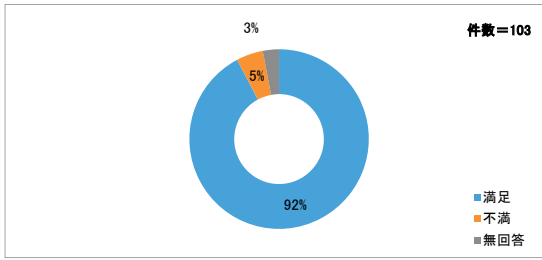
問2 習得した技術が実際の現場で役立っていますか。



研修の有効性について、「役立っている」と答えた人の割合が83%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(12%)、「役立っていない」(3%)の順になっている。

(3) 講義内容の満足度

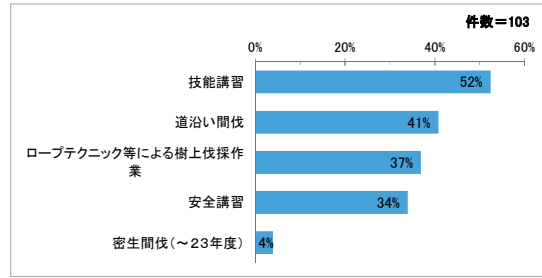
問3 あなたが受講した講義内容は満足できるものでしたか。



講義内容の満足度について、「満足」と答えた人の割合が92%であったのに対し、「不満」と答えた人の割合は5%となっている。

(4) 講義内容の良かった点

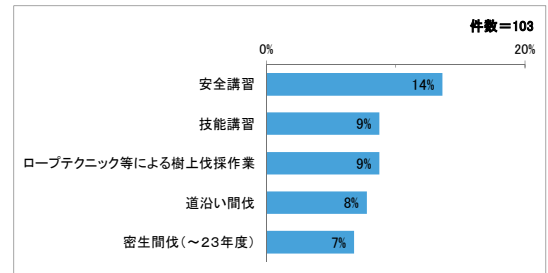
問4 あなたが受講した講義内容で満足できるものは何でしたか。



講義内容の良かった点について、「技能講習」と答えた人の割合が52%と最も高く、続いて「道沿い間伐」(41%)、「ロープテクニク等による樹上伐採作業」(37%)の順になっている。

(5) 講義内容の悪かった点

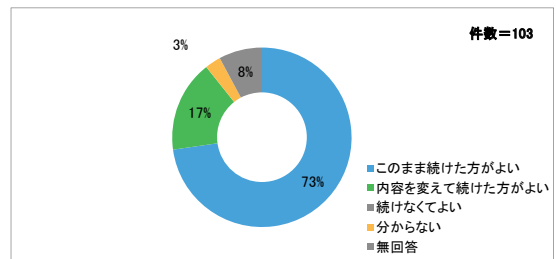
問5 あなたが受講した講義内容で不満だったものは何でしたか。



講義内容の悪かった点について、「安全講習」と答えた人の割合が14%と最も高く、続いて「技能講習」と「ロープテクニク等による樹上伐採作業」(9%)の順になっている。

(6) 今後の事業継続について

問5 あいち森と緑づくり事業による森林整備技術者養成研修を平成31年度以降も続けたい方がよいと思いますか。



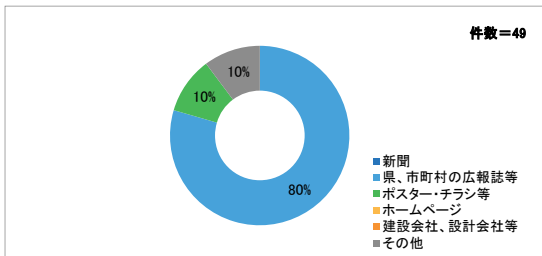
今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(73%)と「内容を変えて続けた方がよい」(17%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が90%であったのに対し、「分からない」と答えた人の割合は3%となっている。

7 都市緑化推進事業 芝生化事業者アンケート

送付数 81 / 回答数 49 回答率 60%

(1) 事業を知った手段

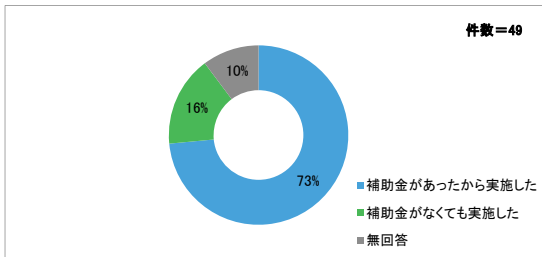
問1 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業は、どこで知りましたか。



事業を知った手段について、「県、市町村の広報誌等」と答えた人の割合が80%と最も高く、続いて「ポスター・チラシ等」(10%)となっている。

(2) 事業実施の理由

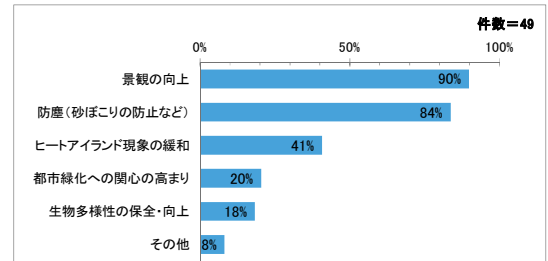
問2 芝生化を行ったのは、あいち森と緑づくり事業の補助金があったからですか。



事業実施の理由について、「補助金があったから実施した」と答えた人の割合が73%であったのに対し、「補助金がなくても実施した」と答えた人の割合は16%となっている。

(3) 事業実施による効果（直接的効果）

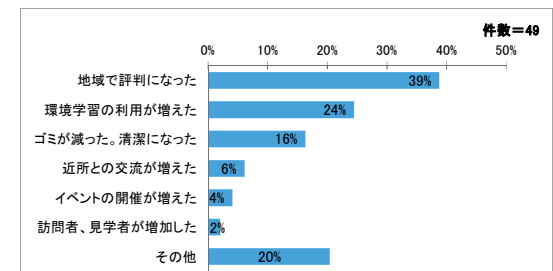
問3 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、実際に効果があったと感じることはありますか。



事業実施による効果(直接的効果)について、「景観の向上」と答えた人の割合が90%と最も高く、続いて「防塵(ぼこりの防止など)」(84%)、「ヒートアイランド現象の緩和」(41%)の順になっている。

(4) 事業実施による効果（間接的効果）

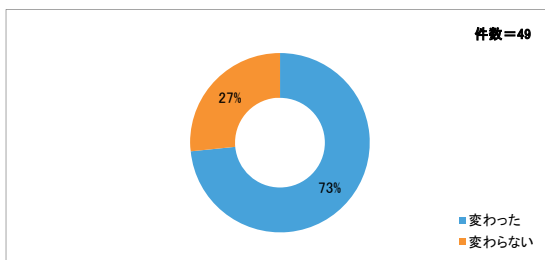
問4 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施箇所において良かったことはありますか。



事業実施による効果(間接的効果)について、「地域で評判になった」と答えた人の割合が39%と最も高く、続いて「環境学習の利用が増えた」(24%)、「ゴミが減った。清潔になった」(16%)の順になっている。

(5) 事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化

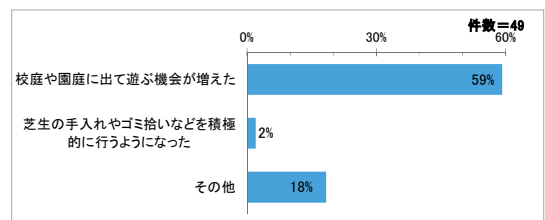
問5 校庭・園庭を芝生化したことにより、子どもたちの利用のしかたは変わりましたか。また、どのように変わりましたか。



事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化について、「変わった」と答えた人の割合が73%であったのに対し、「変わらない」と答えた人の割合は27%となっている。

(6) 事業実施による子どもたちの変化

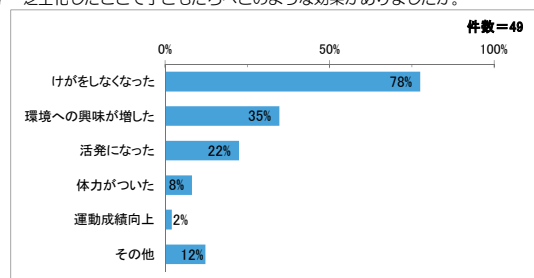
問6 子どもたちの利用のしかたは、どのように変わりましたか。



事業実施による子どもたちの変化について、「校庭や園庭に出て遊ぶ機会が増えた」と答えた人の割合が59%と最も高くなっている。

(7) 事業実施による子どもたちへの効果

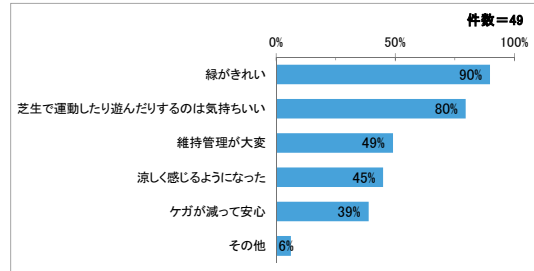
問7 芝生化したことで子どもたちへどのような効果がありましたか。



事業実施による子どもたちへの効果について、「けがをしなくなった」と答えた人の割合が78%と最も高く、続いて「環境への興味が増した」(35%)、「活発になった」(22%)の順になっている。

(8) 事業実施による子どもたちや保護者の反応

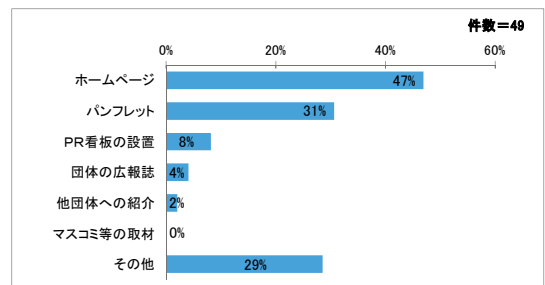
問8 子どもたちや保護者の声はいかがですか。



事業実施による子どもたちや保護者の反応について、「緑がきれい」と答えた人の割合が90%と最も高く、続いて「芝生で運動したり遊んだりするのは気持ちいい」(80%)、「維持管理が大変」(49%)の順になっている。

(9) 芝生化した校庭・園庭の広報

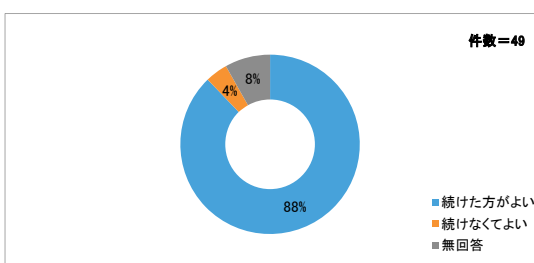
問9 芝生化した校庭・園庭について、情報公開やPRをどのように行っていますか。



芝生化した校庭・園庭の広報について、「ホームページ」と答えた人の割合が47%と最も高く、続いて「パンフレット」(31%)、「PR看板の設置」(8%)の順になっている。

(11) 今後の事業継続について

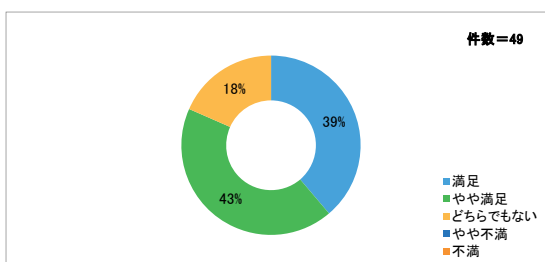
問11 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「続けた方がよい」と答えた人の割合が88%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は4%となっている。

(10) 事業内容の満足度

問10 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の内容は、満足できる事業ですか。



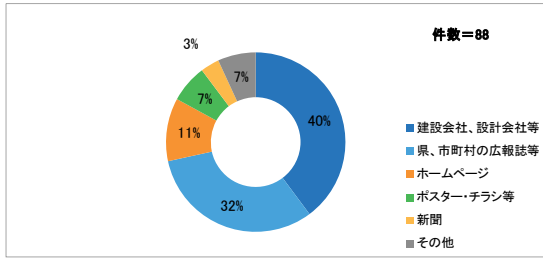
事業内容の満足度について、「満足」(39%)と「やや満足」(43%)を合わせた「満足」と答えた人の割合が82%であったのに対し、「どちらでもない」と答えた人の割合は18%となっている。

8 都市緑化推進事業 民間事業者アンケート

送付数 123/回答数 88 回答率 72%

(1) 事業を知った手段

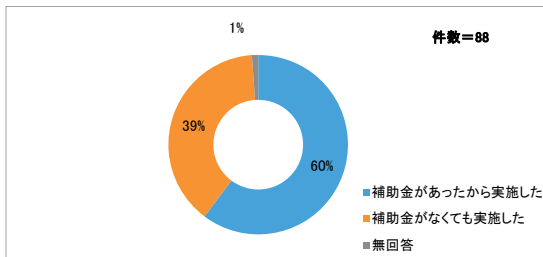
問1 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業は、どこで知りましたか。



事業を知った手段について、「建設会社、設計会社等」と答えた人の割合が40%と最も高く、続いて「県、市町村の広報誌等」(32%)、「ホームページ」(11%)の順になっている。

(2) 事業実施の理由

問2 あなたが今回緑化を行ったのは、あいち森と緑づくり事業の補助金があったからですか。

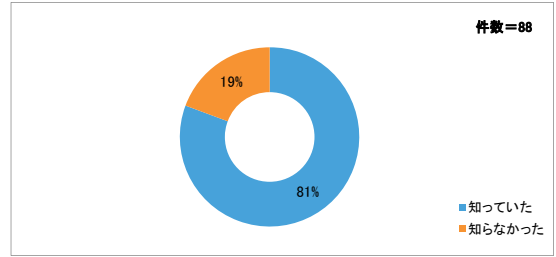


事業実施の理由について、「補助金があったから実施した」と答えた人の割合が60%であったのに対し、「補助金があっても実施した」と答えた人の割合は39%となっている。

41

(3) 都市の緑の多様な機能の認知度

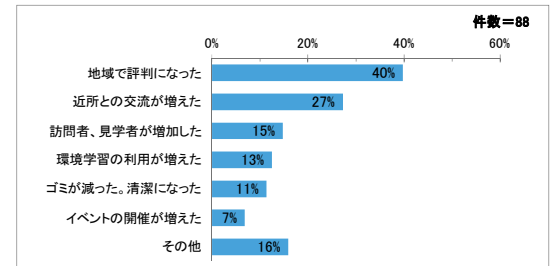
問3 都市の緑は「ヒートアイランド現象の緩和」「生物多様性の保全」「火災延焼防止」などの多様な機能を持っていることを知っていましたか。



都市の緑の多様な機能の認知度について、「知っていた」と答えた人の割合が81%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は19%となっている。

(4) 事業実施による効果(間接的效果)

問4 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、利用の面で良かったことはありますか。

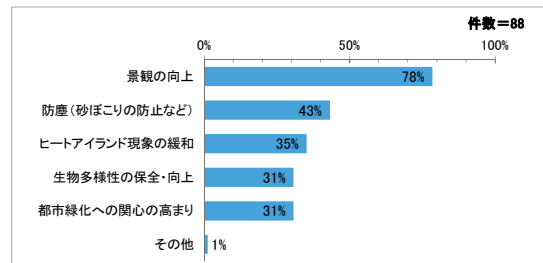


事業実施による効果(間接的效果)について、「地域で評判になった」と答えた人の割合が40%と最も高く、続いて「近所との交流が増えた」(27%)、「訪問者、見学者が増えた」(15%)の順になっている。

42

(5) 事業実施による効果(直接的効果)

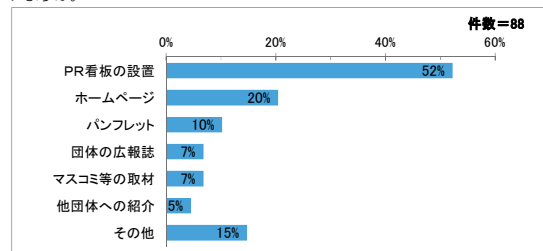
問5 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、実際に効果があったと感じることはありますか。



事業実施による効果(直接的効果)について、「景観の向上」と答えた人の割合が78%と最も高く、続いて「防塵(砂ぼこりの防止など)」(43%)、「ヒートアイランド現象の緩和」(35%)の順になっている。

(6) 事業実施箇所の広報

問6 あいち森と緑づくり事業の実施箇所について、情報公開・PRをどのように行っていますか。

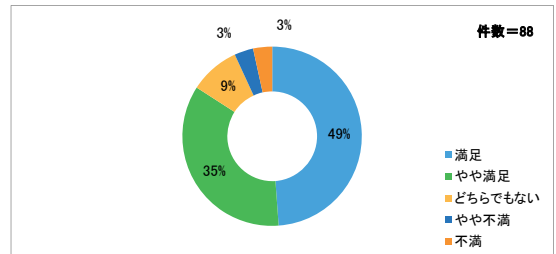


事業実施箇所の広報について、「PR看板の設置」と答えた人の割合が52%と最も高く、続いて「ホームページ」(20%)、「パンフレット」(10%)の順になっている。

43

(7) 事業内容の満足度

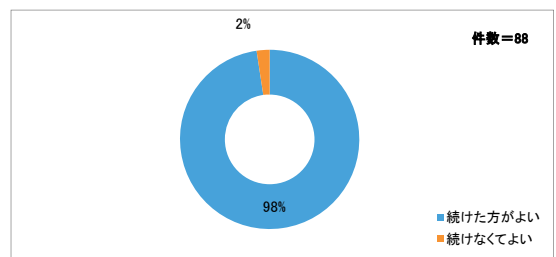
問7 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の内容は、満足できる事業ですか。



事業内容の満足度について、「満足」(49%)と「やや満足」(35%)を合わせた「満足」と答えた人の割合が84%であったのに対し、「やや不満」(3%)と「不満」(3%)を合わせた「不満」と答えた人の割合は6%となっている。

(8) 今後の事業継続について

問8 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「続けた方がよい」と答えた人の割合が98%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合が2%となっている。

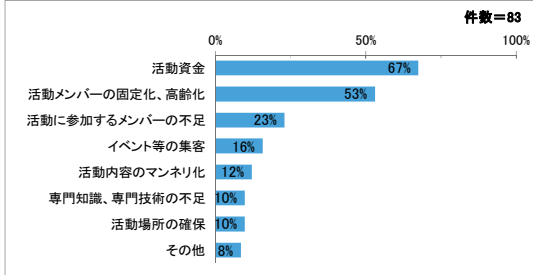
44

9 環境活動・学習推進事業 事業実施団体アンケート

送付数 109/回答数 83 回答率 76%

(1) 活動継続の課題

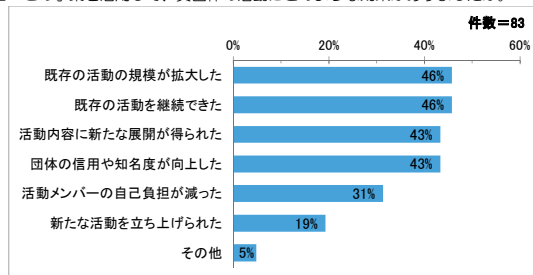
問1 貴団体が活動を継続、発展させていく上で、課題となっていることは何ですか。



活動継続の課題について、「活動資金」と答えた人の割合が67%と最も高く、続いて「活動メンバーの固定化、高齢化」(53%)、「活動に参加するメンバーの不足」(23%)の順になっている。

(2) 事業実施による効果

問2 この事業を活用して、貴団体の活動にどのような効果がありましたか。

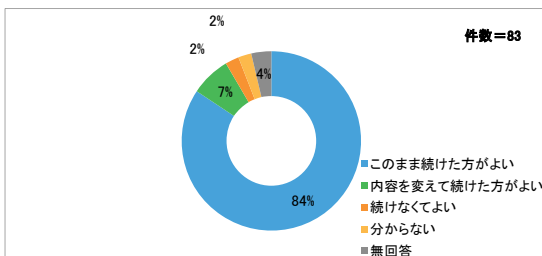


事業実施による効果について、「既存の活動の規模が拡大した」と「既存の活動を継続できた」と答えた人の割合が46%と最も高く、続いて「活動内容に新たな展開が得られた」と「団体の信用や知名度が向上した」(43%)の順になっている。

45

(5) 今後の事業継続について

問7 あいち森と緑づくり事業による環境活動・学習推進の取組を平成31年度以降も続けていった方がよいと思いませんか。

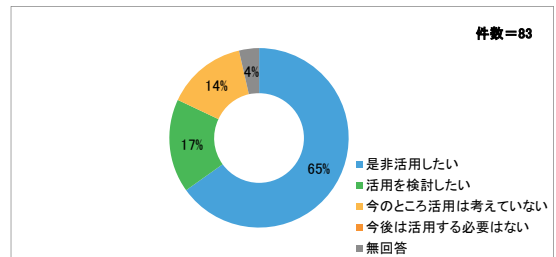


今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(84%)と「内容を変えて続けた方がよい」(7%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が91%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は2%となっている。

47

(3) 今後の事業活用予定

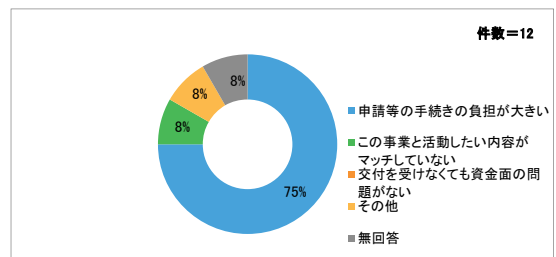
問3 貴団体は、今後もこの事業を活用したいと考えますか。



今後の事業活用予定について、「是非活用したい」と答えた人の割合が65%と最も高く、続いて「活用を検討したい」(17%)、「今のところ活用は考えていない」(14%)の順になっている。

(4) 事業を活用しない理由

問4 問3で「3、今のところ活用は考えていない」又は「4、今後は活用する必要はない」と回答された団体にお聞きします。この事業を活用しない理由をお書きください。



事業を活用しない理由について、「申請等の手続きの負担が大きい」と答えた人の割合が75%と最も高く、続いて「この事業と活動したい内容がマッチしていない」(8%)の順になっている。

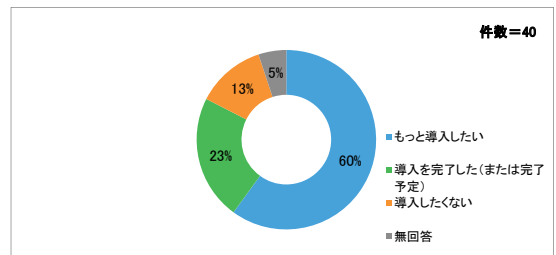
46

10 木の香る学校づくり推進事業 導入校アンケート

送付数 100/回答数 40 回答率 40%

(1) 事業に対する満足度

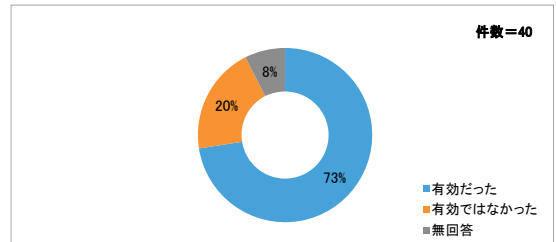
問1 あいち森と緑づくり事業(木の香る学校づくり推進事業)により愛知県産の木材を使用した木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入していかがでしたか。



事業に対する満足度について、「もっと導入したい」と答えた人の割合が60%と最も高く、続いて「導入を完了した(または完了予定)」(23%)、「導入したくない」(13%)の順になっている。

(2) 事業の有効性

問2 木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等の導入は、森林整備の意義や木材活用の効果について児童生徒に知らせてもらうきっかけとして有効でしたか。

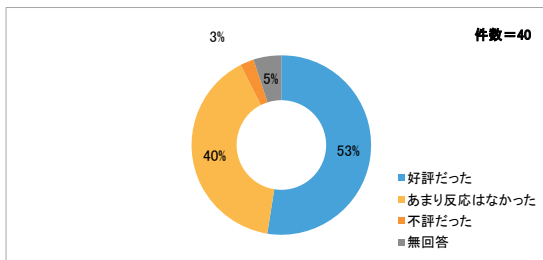


事業の有効性について、「有効だった」と答えた人の割合が73%であったのに対し、「有効ではなかった」と答えた人の割合は20%となっている。

48

(3) 事業実施による児童の反応

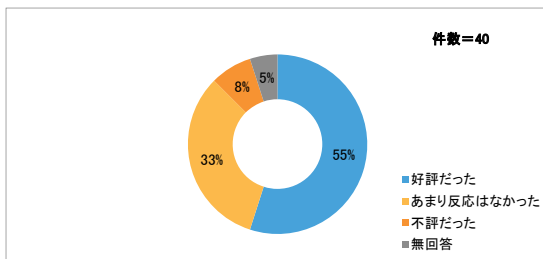
問3 木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入したことによる児童生徒たちの反応はどうかでしたか。



事業実施による児童の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が53%と最も高く、続いて「あまり反応はなかった」(40%)、「不評だった」(3%)の順になっている。

(4) 事業実施による先生の反応

問4 木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入したことによる先生たちの反応はどうかでしたか。

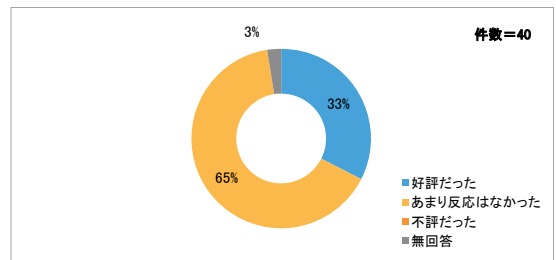


事業実施による先生の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が55%と最も高く、続いて「あまり反応はなかった」(33%)、「不評だった」(8%)の順になっている。

49

(5) 事業実施による保護者の反応

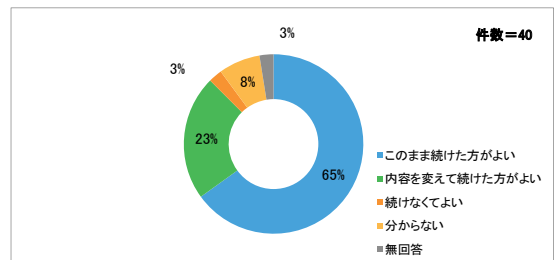
問5 木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入したことによる保護者等の反応はどうかでしたか。



事業実施による保護者の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が33%であったのに対し、「あまり反応はなかった」と答えた人の割合が65%となっている。

(6) 今後の事業継続について

問6 木の香る学校づくり推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(65%)と「内容を変えて続けた方がよい」(23%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が88%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は3%となっている。

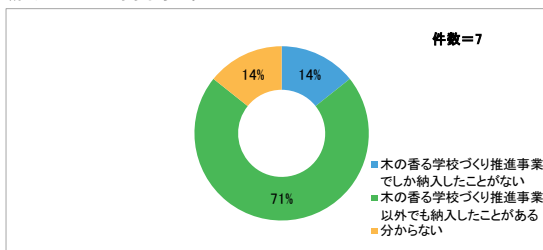
50

11 木の香る学校づくり推進事業 製造業者アンケート

送付数 10/回答数 7 回答率 70%

(1) 県産木材製机・椅子等の納入状況

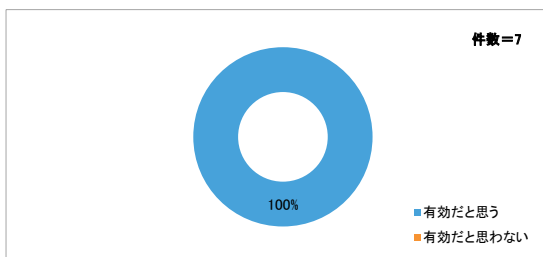
問1 愛知県で、「木の香る学校づくり推進事業」を実施していますが、この事業以外でも愛知県内の小中学校に愛知県産木材を使った木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等を納入したことがありますか。



県産木材製机・椅子等の納入状況について、木の香る学校づくり推進事業以外でも納入したことがある」と答えた人の割合が71%と最も高く、続いて「木の香る学校づくり推進事業でしか納入したことがない」(14%)の順になっている。

(2) 事業の有効性

問2 愛知県産木材を使った木製の机・椅子、下駄箱、ロッカー等の導入は、森林整備の意義や木材活用の効果について普及啓発を図るのに有効だと思いますか。

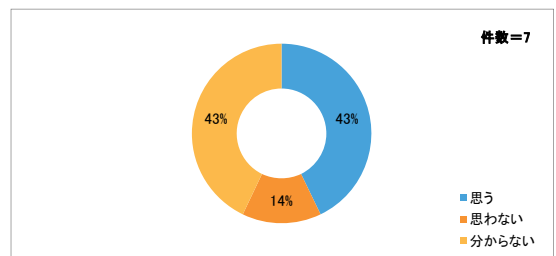


事業の有効性について、「有効だと思う」と答えた人の割合が100%となっている。

51

(3) 事業により導入校が増えたかどうかについて

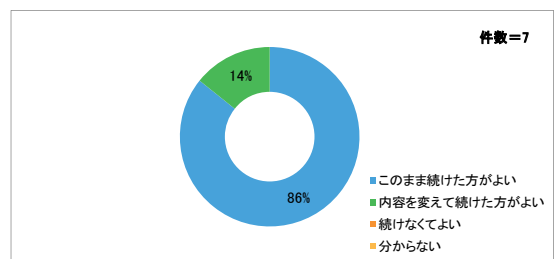
問3 木の香る学校づくり推進事業により、愛知県産木材を利用した児童生徒用学習机・椅子、下駄箱、ロッカー等を導入する学校が増えた(増える)と思いますか。



事業により導入校が増えたかどうかについて、増えた(増える)と「思う」と答えた人の割合が43%であったのに対し、「思わない」と答えた人の割合は14%となっている。

(4) 今後の事業継続について

問4 木の香る学校づくり推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(86%)と「内容を変えて続けた方がよい」(14%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が100%となっている。

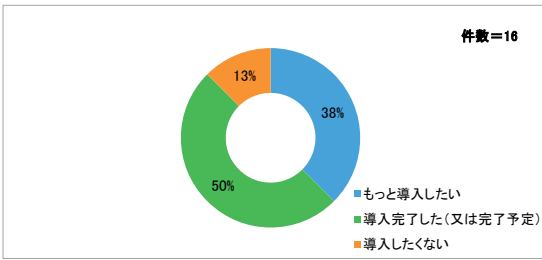
52

12 愛知県産木材利活用推進事業（木製ベンチ導入） 導入施設アンケート

送付数 20/回答数 16 回答率 80%

(1) 事業に対する満足度

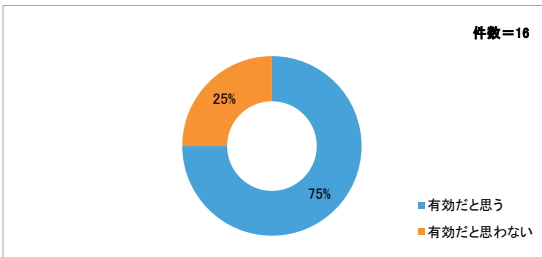
問1 愛知県産木材を利用した木製ベンチを導入していかがでしたか。



事業に対する満足度について、「導入を完了した(または完了予定)」と答えた人の割合が50%と最も高く、続いて「もっと導入したい」(38%)、「導入したくない」(13%)の順になっている。

(2) 事業の有効性

問2 愛知県産木材を利用した木製ベンチの導入は、森林整備の意義や木材活用の効果について施設利用者にとって知らせてもらって有効でしたか。

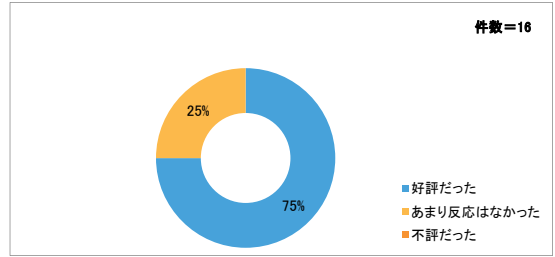


事業の有効性について、「有効だと思う」と答えた人の割合が75%であったのに対し、「有効だと思わない」と答えた人の割合は25%となっている。

53

(3) 事業実施による施設利用者の反応

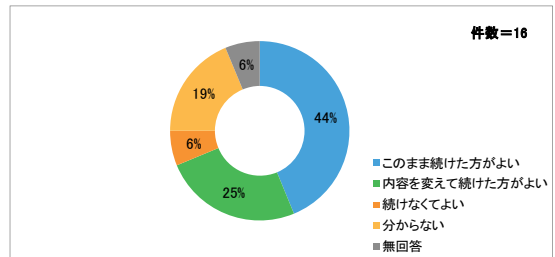
問3 愛知県産木材を利用した木製ベンチを導入したことによる施設利用者の反応はいかがでしたか。



事業実施による施設利用者の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が75%と最も高く、続いて「あまり反応はなかった」(25%)の順になっている。

(4) 今後の事業継続について

問4 愛知県産木材利活用推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(44%)と「内容を変えて続けた方がよい」(25%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が69%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は6%となっている。

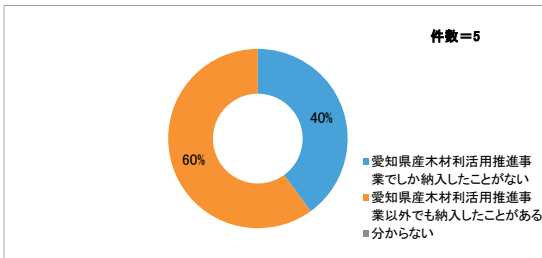
54

13 愛知県産木材利活用推進事業（木製ベンチ導入） 製造業者アンケート

送付数 10/回答数 5 回答率 50%

(1) 県産木材製ベンチの納入状況

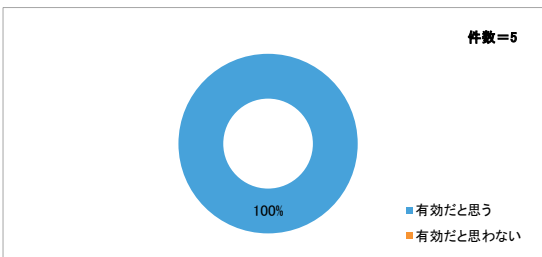
問1 愛知県では「愛知県産木材利活用推進事業」を実施していますが、この事業以外にも公共施設に愛知県産木材を利用した木製のベンチを納入したことがありますか。



県産木材製ベンチの納入状況について、「愛知県産木材利活用推進事業以外でも納入したことがある」と答えた人の割合が60%と最も高く、続いて「愛知県産木材利活用推進事業でしか納入したことがない」(40%)の順になっている。

(2) 事業の有効性

問2 公共施設へ愛知県産木材を利用した木製のベンチを導入することは、森林整備の意義や木材活用の効果について普及啓発を図るのに有効だと思いますか。

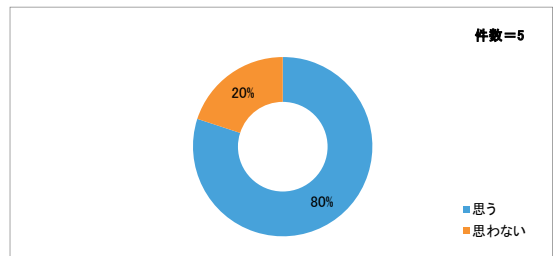


事業の有効性について、「有効だと思う」と答えた人の割合が100%となっている。

55

(3) 事業により導入市町村が増加したかどうかについて

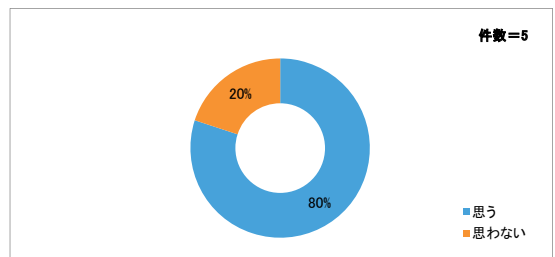
問3 この事業により、愛知県産木材を利用したベンチを導入する市町村が増えた(増える)と思いますか。



事業により導入市町村が増加したかどうかについて、増えた(増える)と「思う」と答えた人の割合が80%であったのに対し、「思わない」と答えた人の割合は20%となっている。

(4) 今後の事業継続について

問4 愛知県産木材利活用推進事業を平成31年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「思う」と答えた人の割合が80%であったのに対し、「思わない」と答えた人の割合は20%となっている。

56